

令和3年度（7月実施）  
佐久市スマホ、タブレット、ゲーム機等に関する  
児童・生徒・園学校保護者アンケート実施結果



## 子どもは電子メディア機器とどんなつきあいをしているの？ ～児童生徒・園学校保護者対象アンケートの結果と考察～

佐久市教育委員会

Saku Kids メディア Safety

令和3年は、新型コロナウイルス対応を行いながら、通常の生活や学校での活動ができるように、家庭や学校でたくさんの工夫をしています。さらに、昨年度、国からGIGAスクール構想の前倒しで、1人1台のタブレット型学習用パソコンの導入について指示があり、佐久市でも令和2年度末までにすべての市立小中学校に端末を配備しました。コロナ禍で外出等が減り、自宅でのメディア接触が増えています。また、インターネットを利用した学習環境の整備が進み、学校でもメディア利用の時間が増えました。

このような状況から、情報モラルに始まり、利用上のトラブルや健康被害、依存症などの問題への対策が、家庭でも学校でも社会でも必須の状況であります。

今年度は、県下でアンケート調査を実施する市町村や学校がさらに増加し、保護者アンケートも県から統一した内容で実施の依頼がありました。「Saku kids メディア Safety」、佐久市教育委員会としても、佐久市の状況把握と国や県の状況も踏まえつつ、電子メディアとの適切な付き合い方について、これからも各種の取り組みを行っていきたいと考えています。

### 1 アンケートの目的

- (1) 幼児、児童、生徒が電子メディア機器とどのような接触をしているのか、またそれについて各家庭でどのような対応をしているのか、その実態を把握する。
- (2) 各園、学校、PTAが自分たちの実態を知り、自分たちの課題として捉え改善に向けた行動に移す。
- (3) 市全体の状況把握をし、全市的な啓発の取り組みを検討する。

### 2 実施時期

令和3年7月

### 3 対象学年等について

〈小学校〉 3年生以上

〈中学校〉 全生徒

〈保護者〉 保育園・幼稚園の保護者 小中学生保護者

#### 〈アンケート結果と考察の目次〉

(1) 小中学生アンケートの結果から P 2～11

(2) 小中学生保護者アンケートの結果から  
P 12～24

(3) 幼稚園・保育園保護者アンケートの結果から  
P 25～29

### 4 アンケート内容・実施方法について

- (1) 児童生徒は学校において一斉アンケート。今年度は、1人1台PCでGoogleフォーム利用。実施所要時間は発達段階にもよるが、通常15分程度。実施者が一斉に読み上げながら進めるのが理想とした。
- (2) 園および小中学生の保護者へは電子メール配信システム「オクレンジャー」で配信し、Googleフォームにより実施した。未加入の園・家庭には紙ベースのアンケートを実施した。

## 5 回答が得られた人数・回収率（小数点以下四捨五入）

<児童生徒>

小学校 3年 808人 4年 864人 5年 860人 6年 799人 計 3331人  
 3331(回答数)/3427(全児童数) 回収率 97%  
 中学校 1年 785人 2年 774人 3年 817人 計 2376人  
 2376(回答数)/2525(全生徒数) 回収率 94%

<保護者>

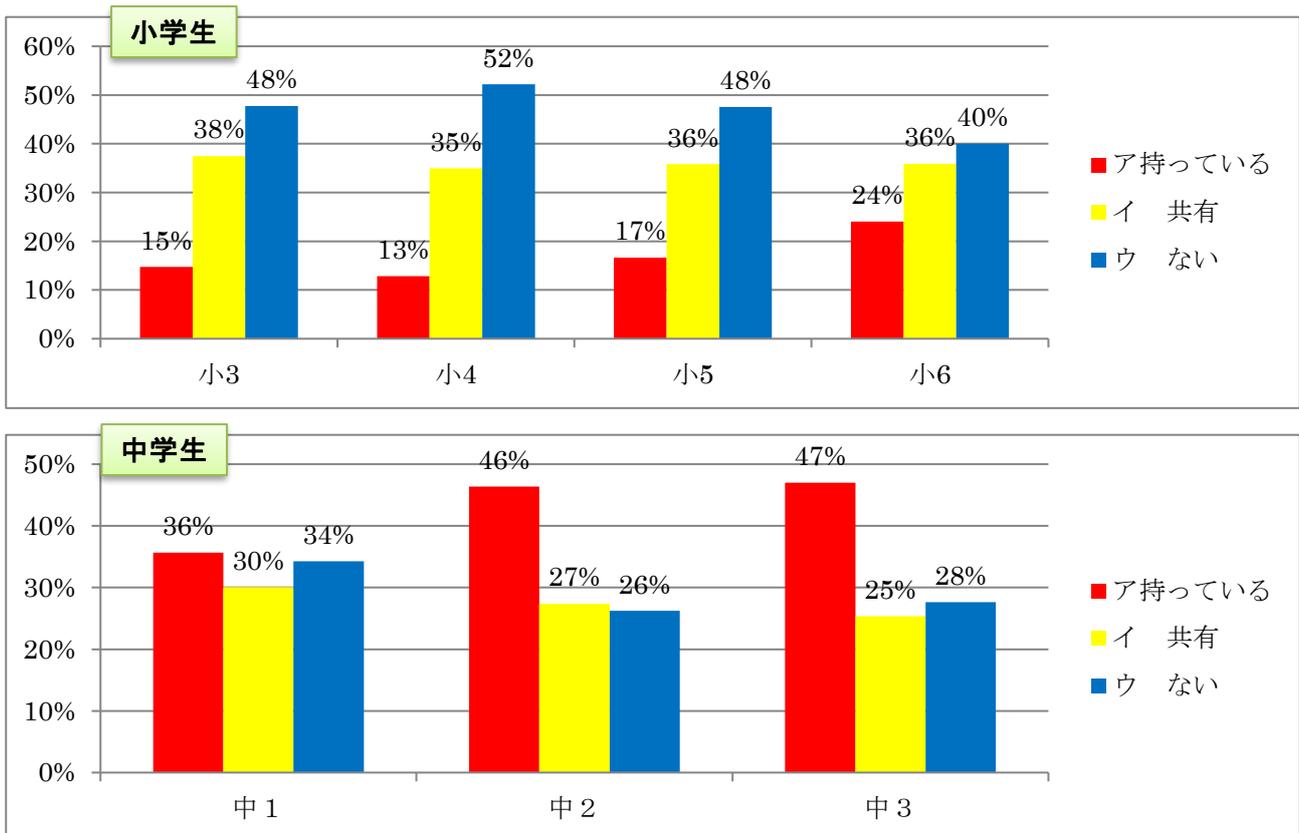
小学校 1年 620人 2年 657人 3年 642人 4年 688人 5年 733人 6年 695人  
 計 4035人 4035(回答数)/5083(全児童数) 回収率 79%  
 中学校 1年 636人 2年 620人 3年 680人  
 計 1936人 1936(回答数)/2525(全生徒数) 回収率 77%  
 保育園・幼稚園 未満児 732人 年少 708人 年中 659人 年長 728人  
 計 2827人 2827(回答数)/3154(全園児数) 回収率 90%

## 6 結果と考察

注：百分率（%）は小数点第1位を四捨五入しているため、合計が100でない場合があります

### (1) 小中学生アンケートの結果から

#### 問① あなたは、自分が使えるスマホを持っていますか？

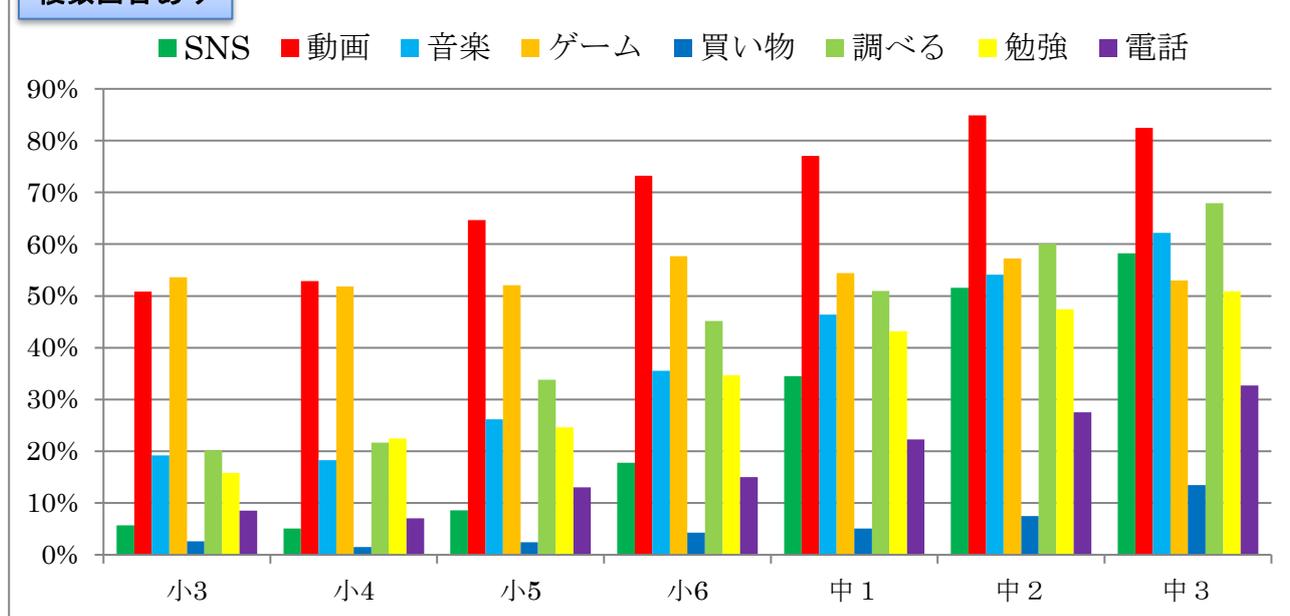


小学生では自分所有のスマホは1割～2割強程度、中学生においては3割強から5割弱程度である。小学生はおおむね昨年度と同じ割合である。中学生は、1年が昨年度小学校6年時に23%が36%と13%増加した。2年生は、昨年度1年次26%から46%と20%の増加、3年生は34%から47%と13%の増加である。中学生の自分所有の割合がどの学年も1～2割増えており、大きな変化がみられる。

## 問② スマホやパソコン、タブレットでよく使うのは何ですか？

※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。

複数回答あり

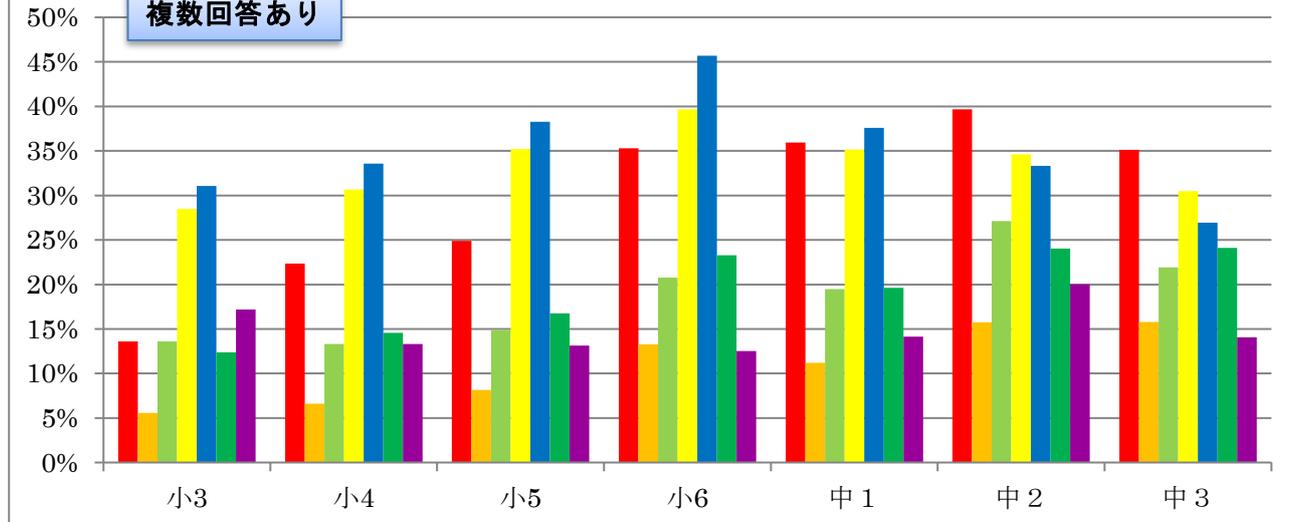


小中学生が一番多く利用しているのはこれまでと同様に動画の視聴であり、小中学生ともにその割合が高い。ゲームはどの学年も50%程度の使用割合である。音楽、調べる、勉強、電話が、学年が上がる毎に増えていく。中学生になると、SNSの利用が急増するが、中3でも58%の利用で、すべての生徒が利用している訳ではない事がわかる。

## 問③ オンラインゲームについて、よくやっているものは何ですか？

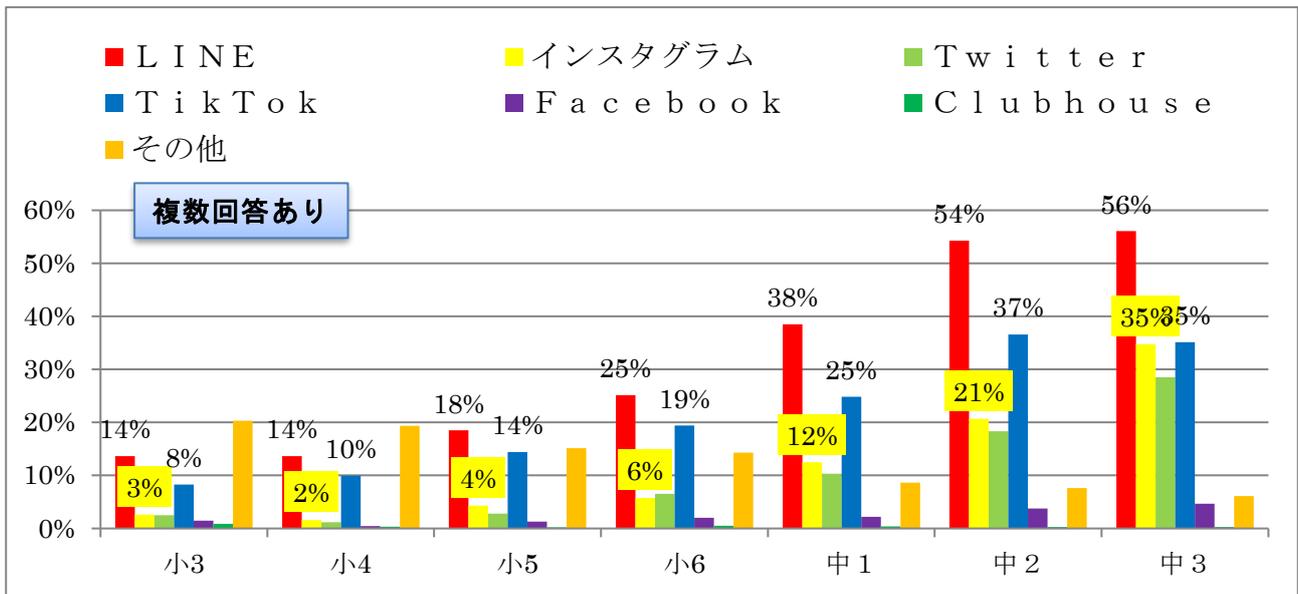
■ バトロワ ■ スポーツ ■ パズル ■ アクション ■ コミュニケーション ■ RPG ■ その他

複数回答あり



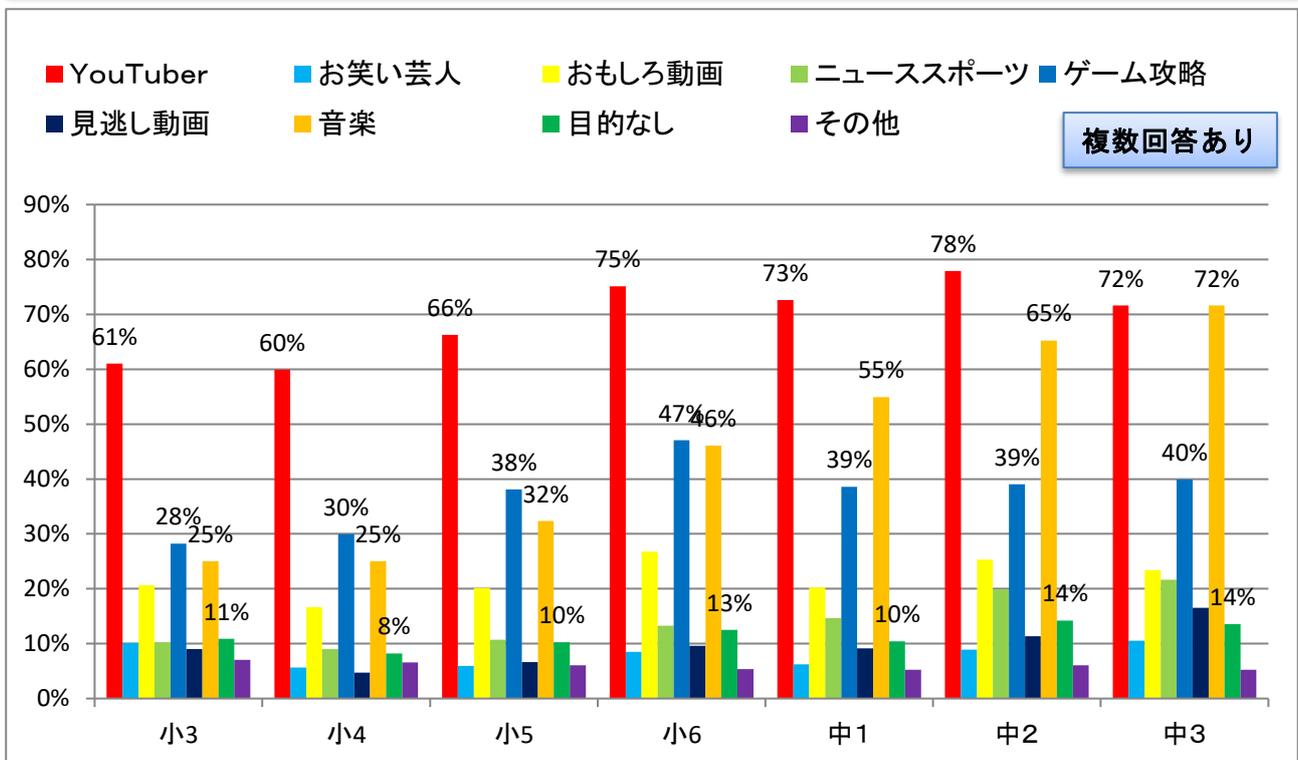
子ども同士のトラブルが多いバトルロワイヤルゲームは、小学校6年生から35%を超え、中学生は横ばいである。コミュニケーション、アクションとも小学校6年生がピークとなり、中学校1～3年生では学年が上がるごとに減少する。ゲームの利用は多いものでも40%ほどであり、「クラスのみんながやっている」状況ではない。

問④ SNSについて、よくやっていて当てはまるものを選んでください。  
 ※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。



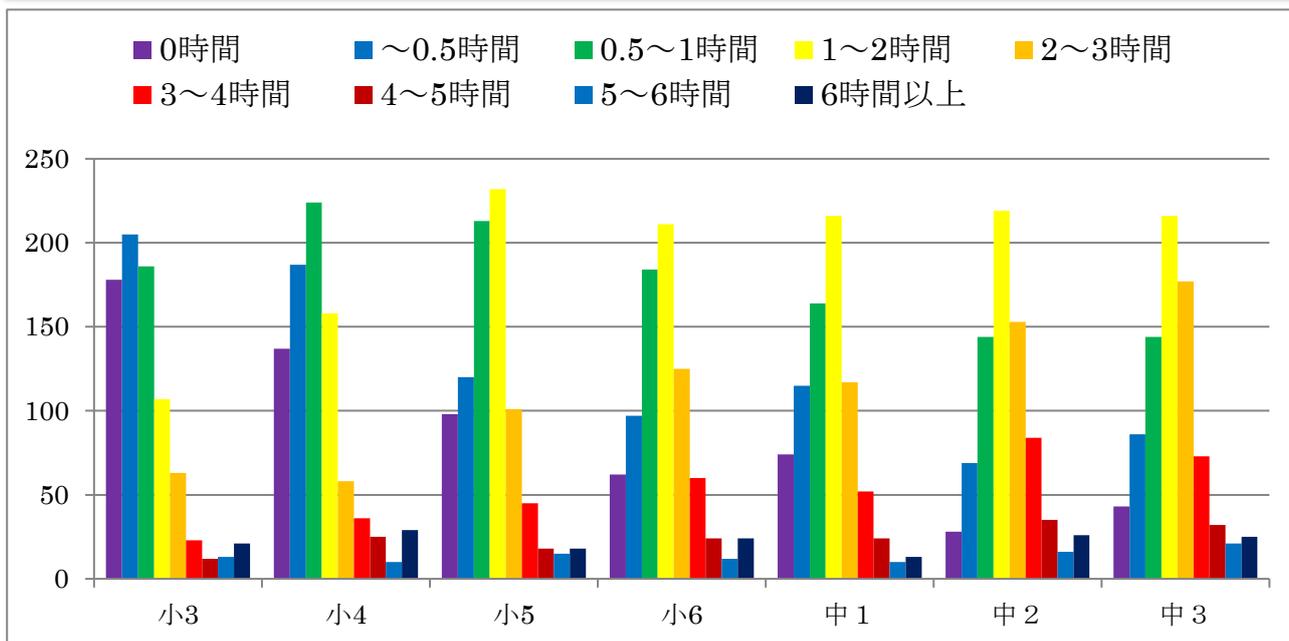
LINEとTikTokの利用が多く、Instagramがそれに続く。LINEは中学2・3年生で半数以上の利用がある。視聴のみか、自ら発信しているかによってかかえる課題が変わってくる。学校からの報告も併せると、発信をしている場合は個人情報の流出や誹謗中傷などが心配される。

問⑤ 動画について、よく見ている当てはまるものを選んでください。  
 ※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。



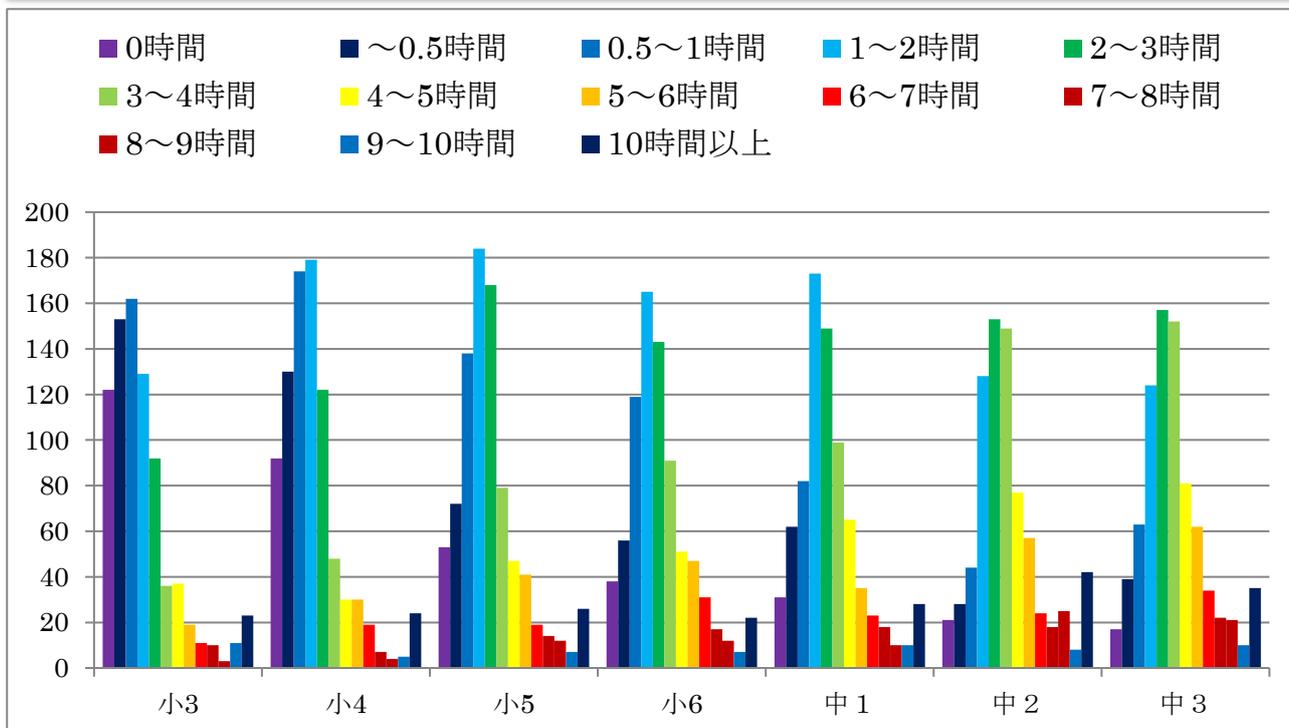
全学年YouTuberの動画を見るのが最も多く、ゲーム攻略動画がこれに続く。音楽の動画は学年が上がる毎に増加し、中学3年ではトップに並ぶ。目的なしがどの学年にも1割程度おり、「つい見てしまう」「やめられない」様子がうかがえる。

問⑥-1 平日、学習以外【SNS、ゲーム、動画など】で平均どのくらいの時間、パソコン、スマホ、タブレット、ゲーム機等を使っていますか？



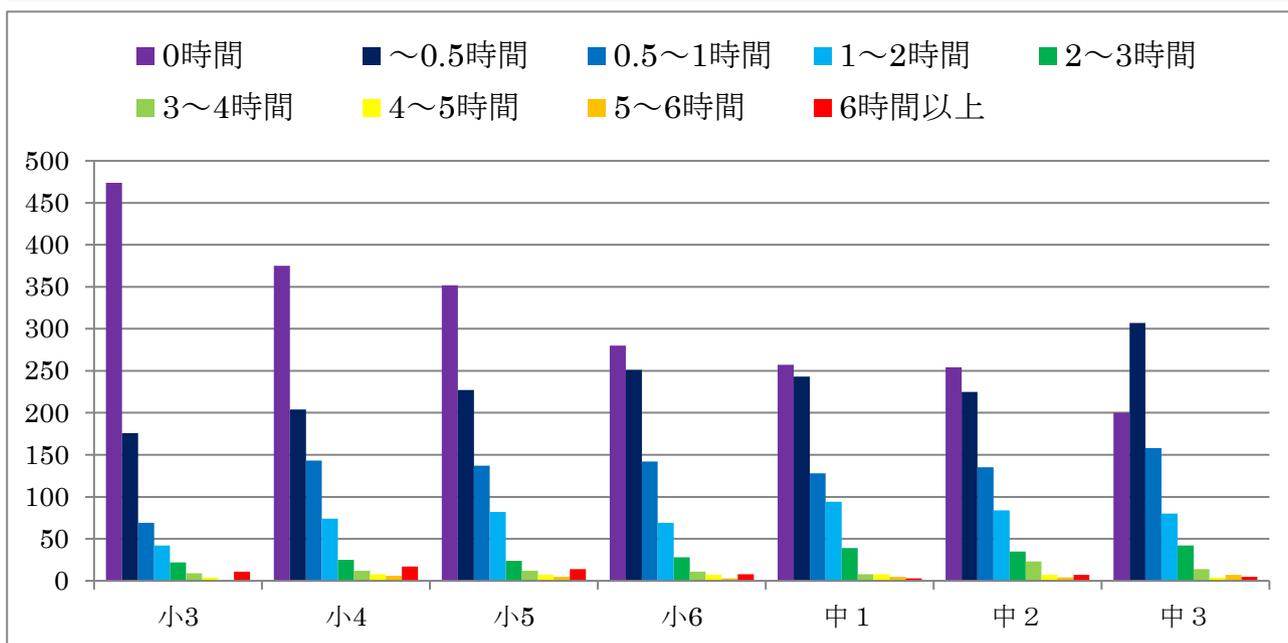
小中学生ともに、学年が上がるにつれて使用時間が増加している。小学校3年生で0.5時間がピークであるのに対して、小学校5年生で1～2時間がピークとなり、中学校3年生まで続く。2時間以上の利用が、昨年度よりも増加している。

問⑥-2 休日、学習以外【SNS、ゲーム、動画など】で平均どのくらいの時間、パソコン、スマホ、タブレット、ゲーム機等を使っていますか？



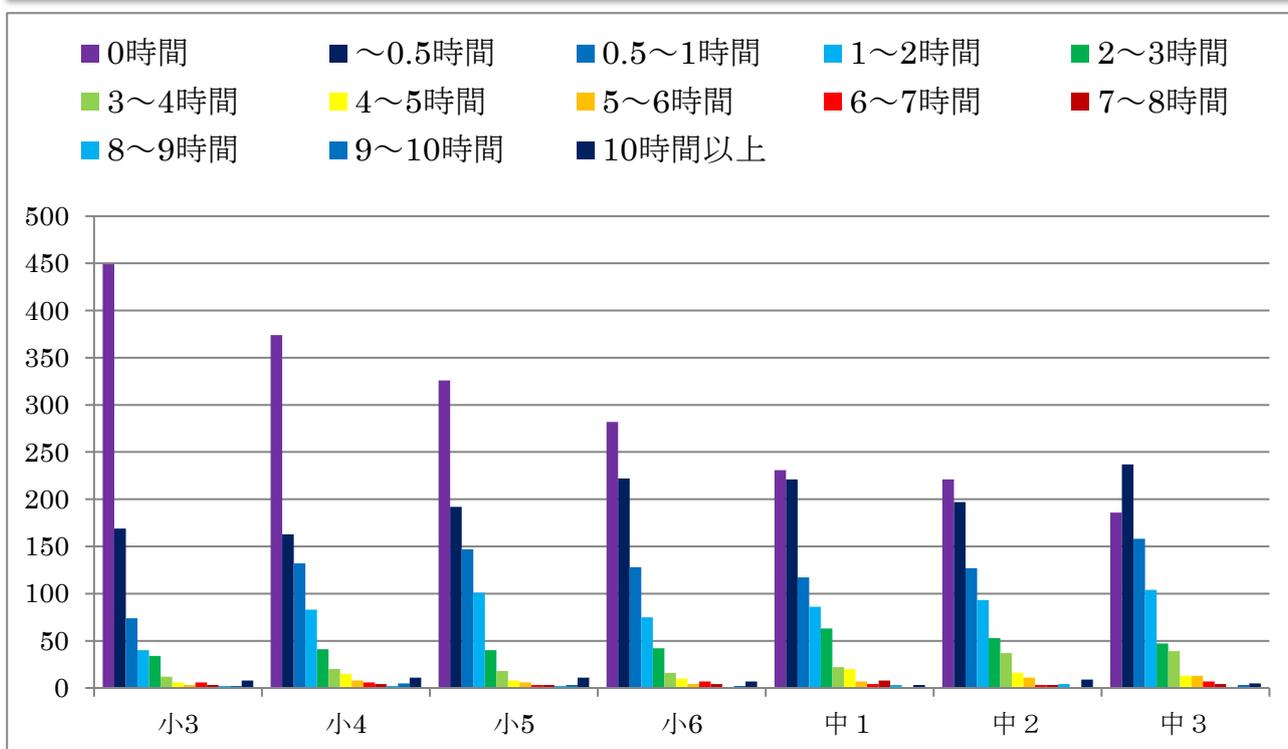
平日と同様に、学年が上がるほど使用時間が多くなる傾向がある。ピークの値は昨年度と同様だが、長時間の使用が増加している。10時間以上電子メディア機器に触れている児童生徒が、どの学年も大きく増加している。

問⑥—3 平日、学習でICT機器【パソコン、スマホ、タブレット】を平均何時間くらい使っていますか？



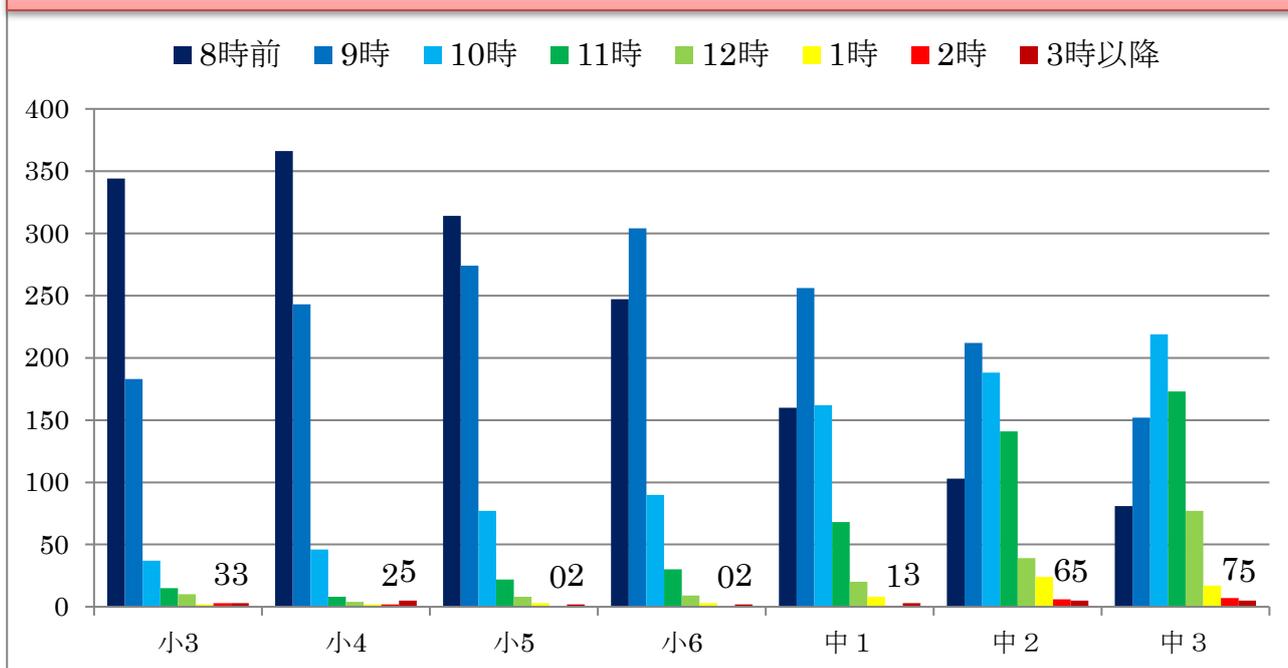
平日の学習での利用はあまり進んでおらず、小学生ではほとんどないといつてよい状況である。中学生になると0.5時間利用がピークとなるが、それ以上の使用は小学生と変わらない。

問⑥—4 休日、学習でICT機器【パソコン、スマホ、タブレット】を平均何時間くらい使っていますか？



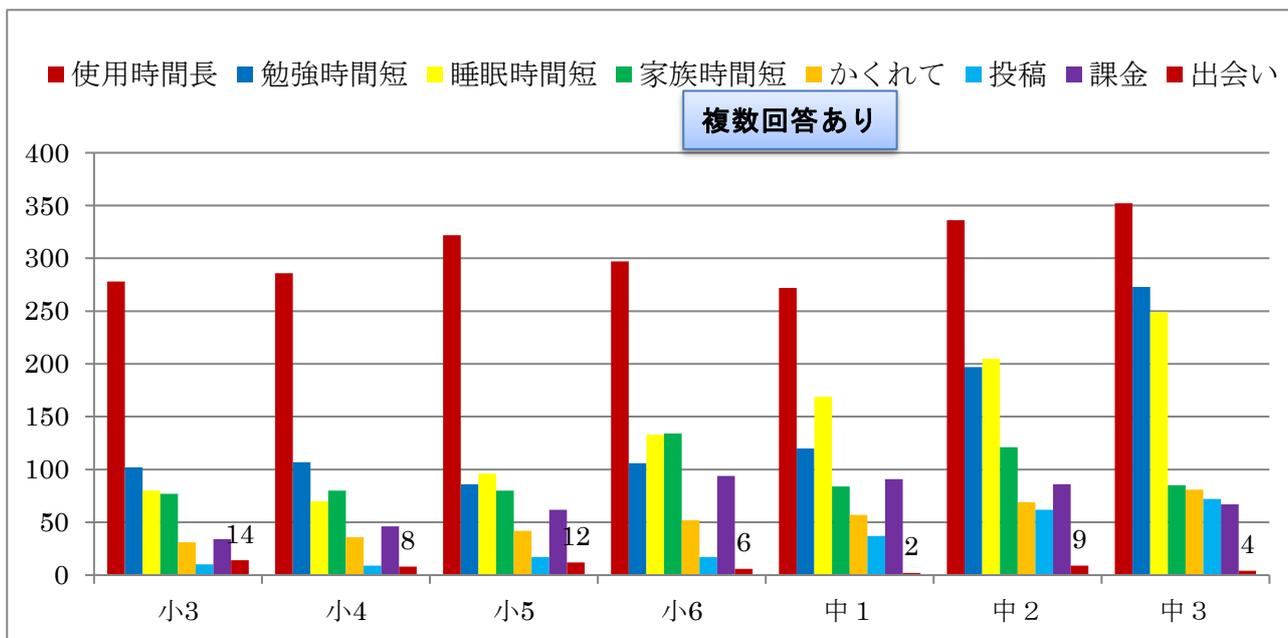
休日でも、平日と同様の傾向が見られる。若干ではあるが、4時間以上から10時間以上まで数人の使用があり、どのような学習に利用しているのか興味がある。学習での利用でも健康被害は心配であり、長時間使用は課題である。

問⑦ 平日の夜、ゲームや動画、SNSなどを何時頃までやっていることが多いですか？ ※使っている人だけ答えて。



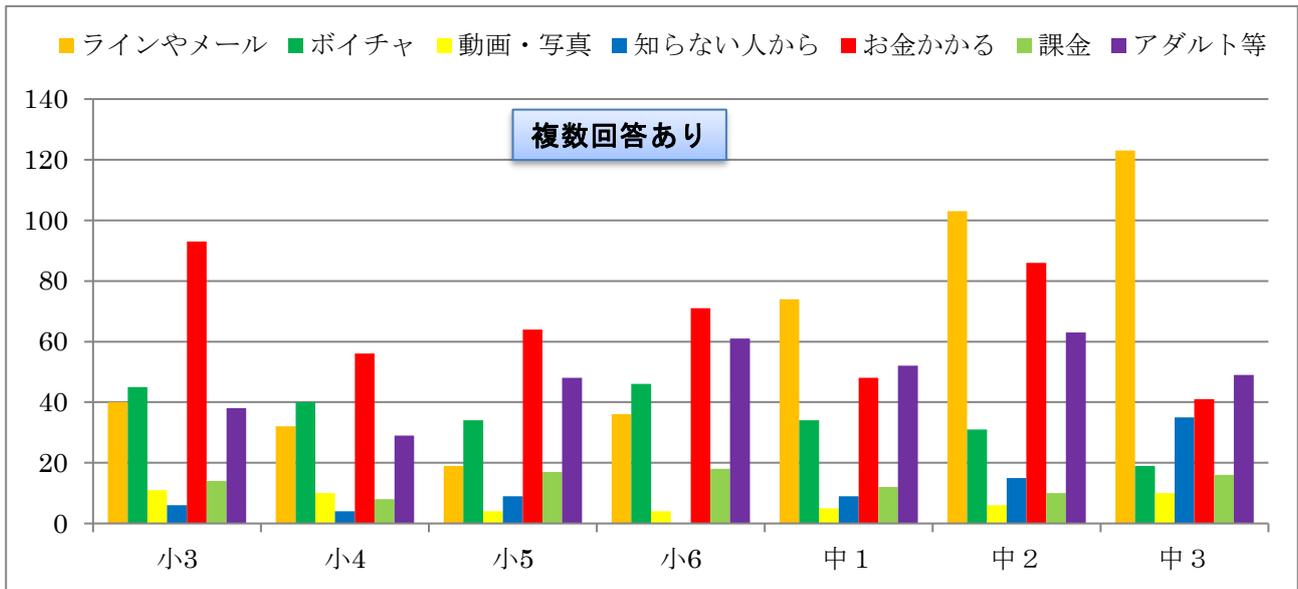
小学生は、午後9時頃までにやめる児童がほとんどである。中学生は、学年が上がるにつれて遅い時間まで使用している状況である。中学生は、午後11時以降の使用が多くなり、3時以降使用している生徒もいる。保護者の目の届かないところでの使用が多いものとみられ、心や体への影響が心配である。

問⑧ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになって・・・？ ※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。



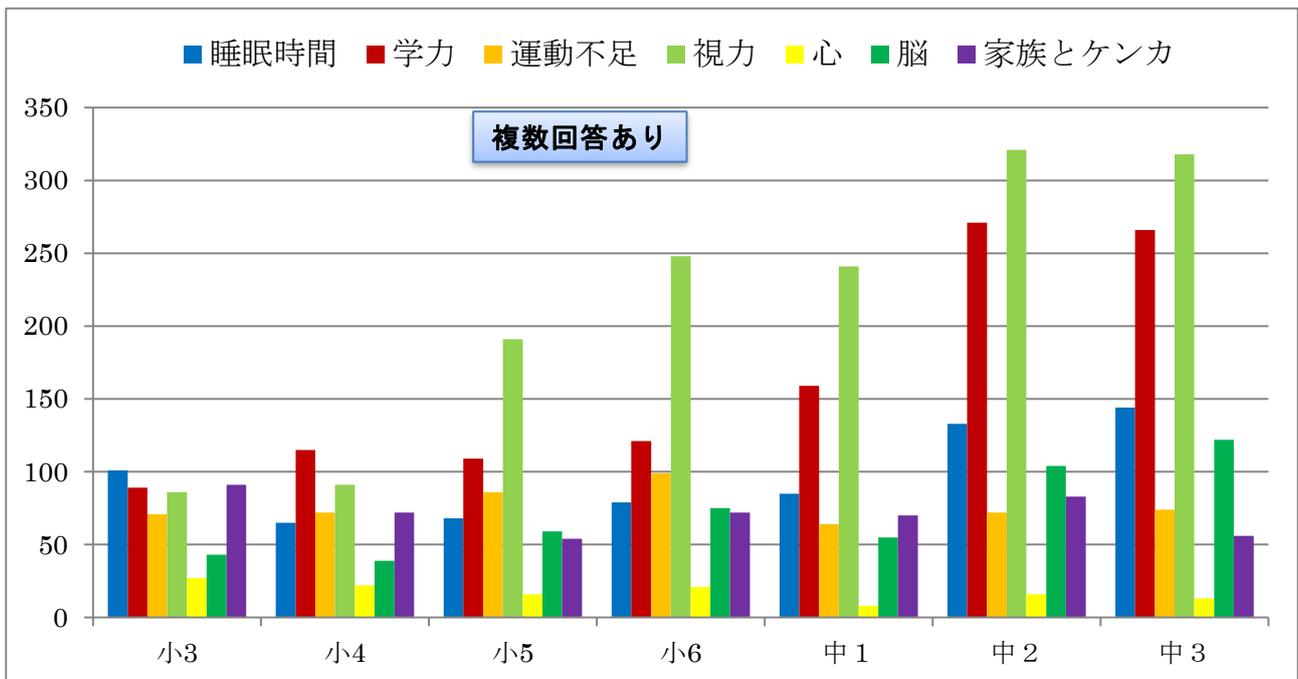
昨年度同様、小中学生ともに「使用時間が長くなった」という回答が多い。電子メディア機器の使用が増えた分の時間、学習時間や睡眠時間を削っている現状が見える。また、ネットで知り合った人と会っている児童生徒はどの学年にも数人いる。どんな人と会っているか、保護者は承知しているか心配されるところである。

問⑨ スマホ、タブレット、ゲーム機などを使うようになり困った（心配な）ことはありましたか？ ※使っている人だけ。いくつ答えてもよい。



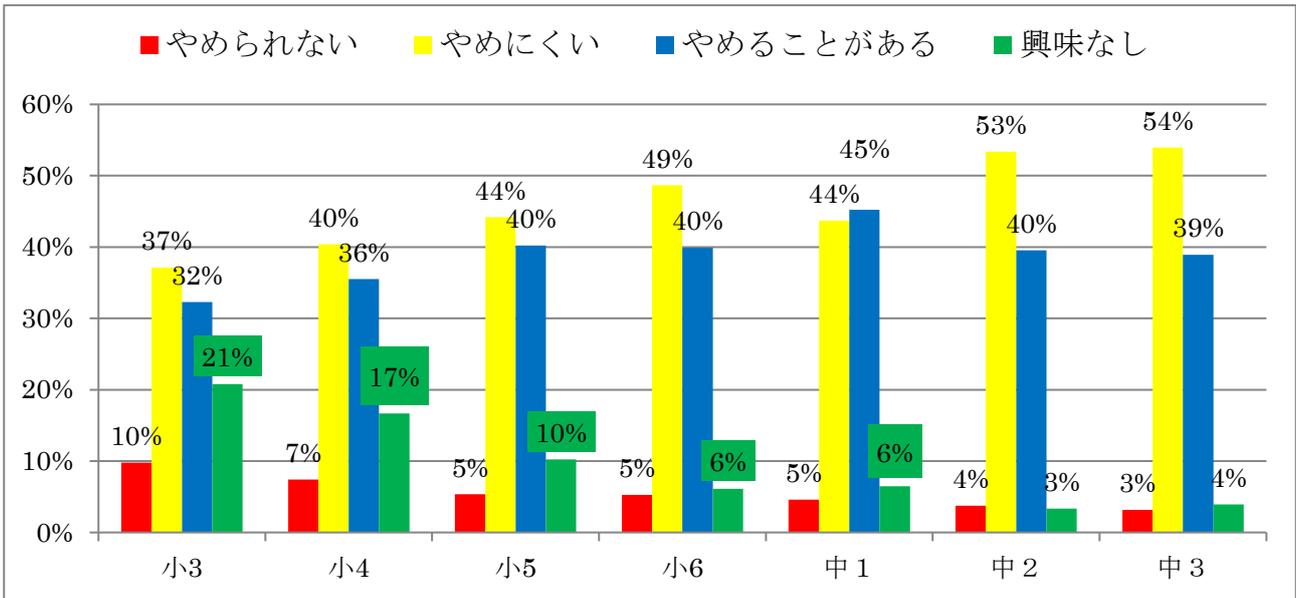
小学生はお金がかかることに心配を感じている。中学生にも同様の心配があるが、勉強中や寝るときにLINEやメールが来ることに困っている生徒が急増している点は中学生になってみられる特徴である。これは、自分用のスマホを持つことにより、子ども同士の個人的なやり取りが行われるようになったことと関係があると考えられる。アダルトや課金の心配が学年問わずあり、見過ごせない課題である。

問⑩ スマホ、タブレット、ゲーム機等を使うようになり、健康などで当てはまることはありますか？ ※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい



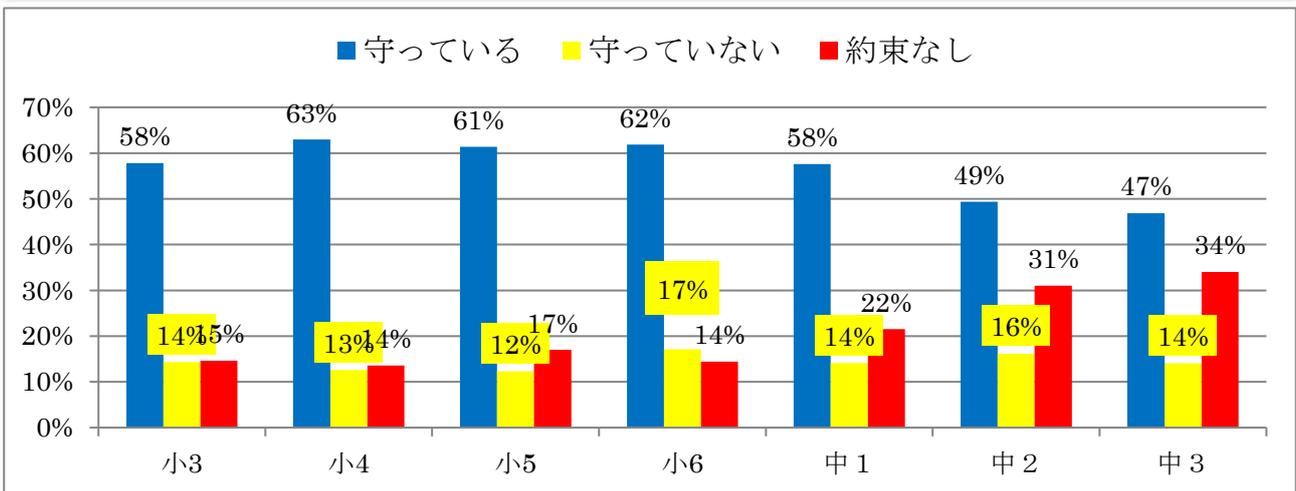
昨年度同様、視力を気にする小中学生が多い。学年が上がるごとに学力への心配が増加傾向にある。中学生になると、学力を心配する生徒が目立って増加する。昨年度よりも、脳への影響を心配する児童生徒が、今年度は中学生で多くなっている。

問⑪ あなたは、スマホ、ゲーム、インターネット（どれでもよい）に、どのくらい夢中になっていますか？



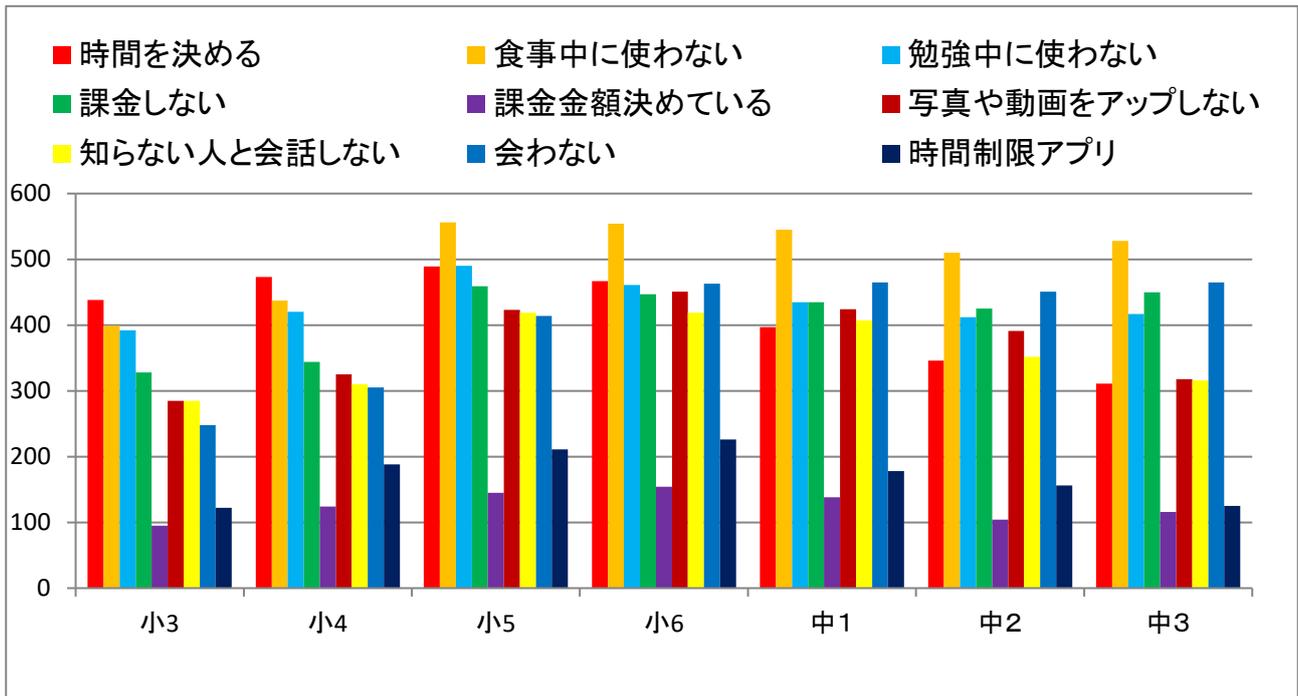
小学校3年生は、「やめられない」児童が10%だが、学年が上がるごとにわずかながら心のコントロールができるようになって、一定の歯止めが利くようになってきていると考えられる。これは昨年度と同様である。しかし、「やめにくい」がここ数年徐々に増加傾向にあり、その心のコントロールは必ずしも十分とはいえない状況である。

問⑫ スマホやタブレット、ゲーム機を使うときのお家の人との約束はありますか？ ※使っている人だけ答えて。



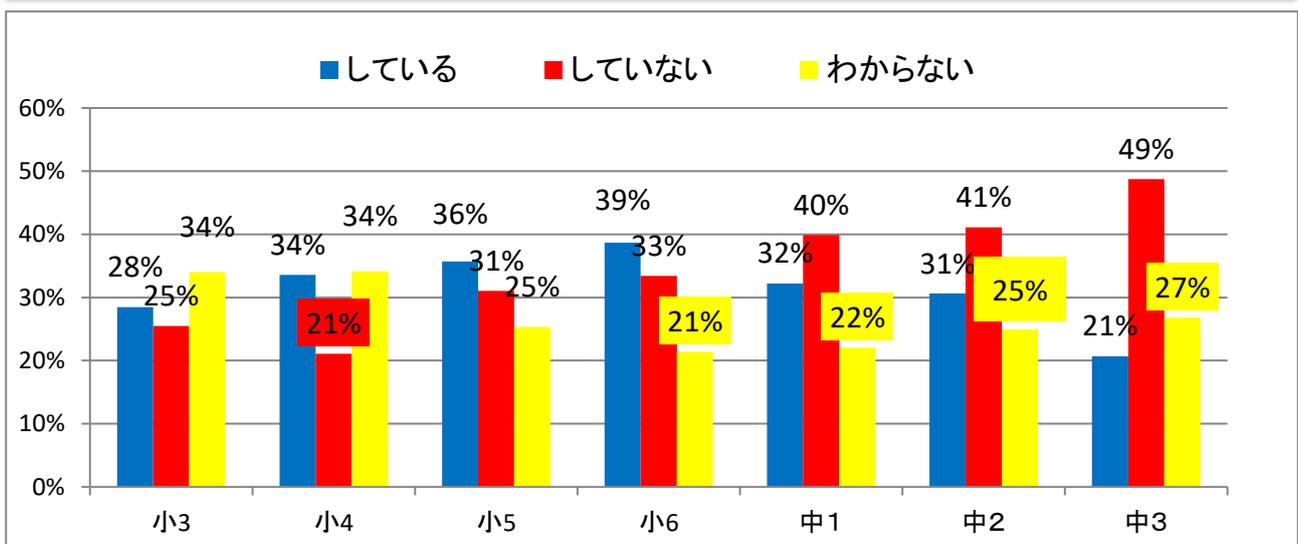
「約束を守っている」と答えている割合が多いのは小学生で、学年が上がるにつれて減少している。昨年度よりもその割合は減っており、小学校3年生では、15%の減少である。それとは逆に、学年が上がるにつれて「約束がない」と捉えている児童生徒が増加しており、中学生になるとその割合が2～3割強に達する。保護者との意識のずれについては毎年同じ傾向で、保護者は、約9割が約束があると思っている。学校でのトラブル後の聞き取りなどから、内緒で使っているうちに、徐々に「約束がないがごとくになっている」のではないかと考えられる。また、思春期になると親子のコミュニケーションが減ることも多く、親子関係づくりも大切なポイントであろう。

問⑬ スマホやタブレット、ゲーム機を使うとき、心がけていることや決めていることはありますか？ ※使っている人だけ答えて。いくつ答えてもよい。



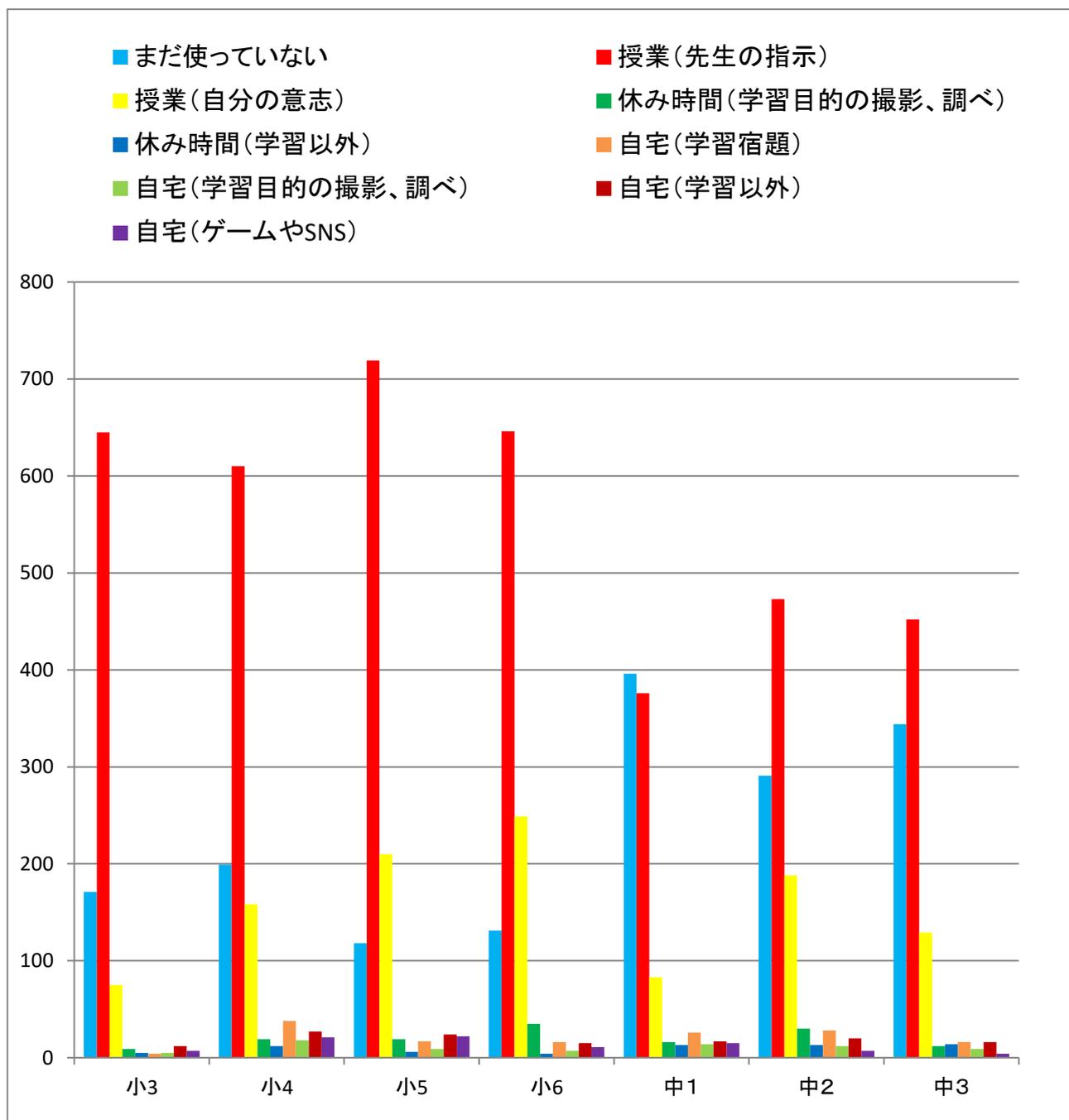
小学生は、「時間を決める」が多いが、5年生から「食事中に使わない」がトップになり、中学校3年生まで続く。中学生になると「会わない」が2番目に多くなる。これは、会うことの可能性などが増加していることを表していると考えられる。また、小学生は「写真や動画をアップしない」「時間制限アプリ」が学年を追う毎に増加しているが、中学生では学年を追う毎に減少している。写真や動画をアップしたり、時間制限アプリの使用をやめたりする生徒が増えるためであると考えられる。

問⑭ペアレンタルコントロール（親が時間制限、アプリ制限）をしている。



ペアレンタルコントロールを親が「している」と思っている小学生は3～4割ほど、中学生は2～3割ほどである。中学生になると減少している。保護者は小中学生ともに「している」が65%ほどで、問⑫同様に、親子の意識に大きなずれが見られる。

問⑮ 学校のタブレットやコンピュータでよく使うことを選んでください。  
 (家に持ち帰った時も含む) ※いくつ答えてもよい。



佐久市では、学校における1人1台端末の使用が本格的に始まった頃にアンケートを行ったため、「まだ使っていない」という回答が多く見られた。また、新しい端末の利用であるため、「授業(先生の指示)」で一斉に使用する場面が多い状況であったと考えられる。小学校5、6年生では、「授業中(自分の意思)」で使用する場面が増えており、小学校では学年が上がる毎に児童の主體的な使用がされはじめていくことが分かる。

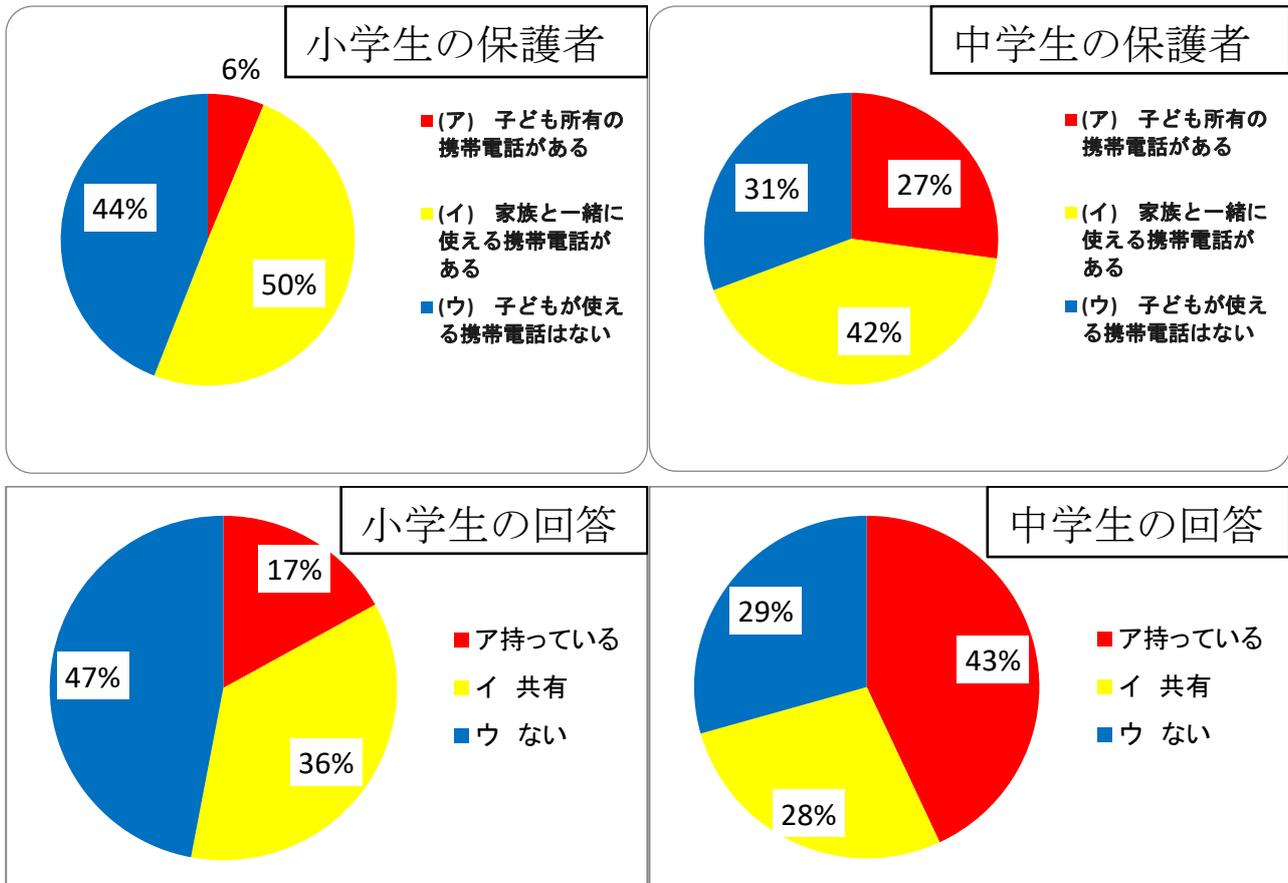
市全体として、1学期は家庭への持ち帰りを行っていないため、自宅での使用はどの項目についてもあまり使用されていない状況である。「自宅(学習宿題)」「自宅(学習以外の)」がある程度見られるが、自宅のタブレットやパソコンを子どもが使用する状況は少ないと考えられる。

## (2) 小中学生保護者アンケートの結果から

お子様の学年を教えてください。

小学校	1年 620人	2年 657人	3年 642人			
	4年 688人	5年 733人	6年 695人			
	計 4035人	4035 (回答数) / 5083 (全児童数)		回収率	79%	
中学校	1年 636人	2年 620人	3年 680人			
	計 1936人	1936 (回答数) / 2525 (全生徒数)		回収率	77%	

### 問1 お子様が見えるスマートフォンはありますか？

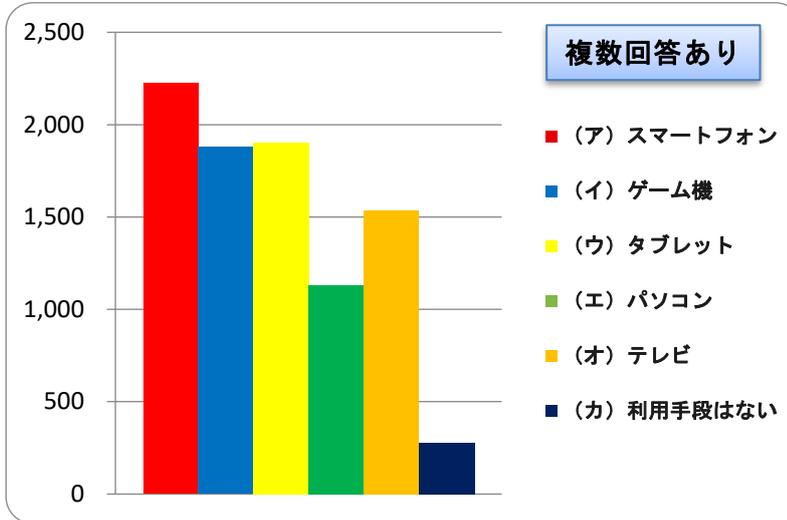


保護者の回答と、学校において子どもが回答した結果に差が見られる。小学生は17%が自分専用の携帯電話を持っているとしているが、保護者は6%で3倍近くの開きがある。中学生は子どもの43%が自分専用の携帯電話があるとしているが、保護者は27%で、こちらも1.5倍の違いがある。考えられる状況として、  
 ①保護者は保護者の所有物と思っても子どもは「自分のもの」と捉えている。  
 ②保護者所有の携帯電話を保護者が認識している以上に子どもが使っている。  
 この状況は、ここ数年変わらない。「保護者が知らないところで子どもが使っている」といった状況にならないように気をつけていく必要がある。

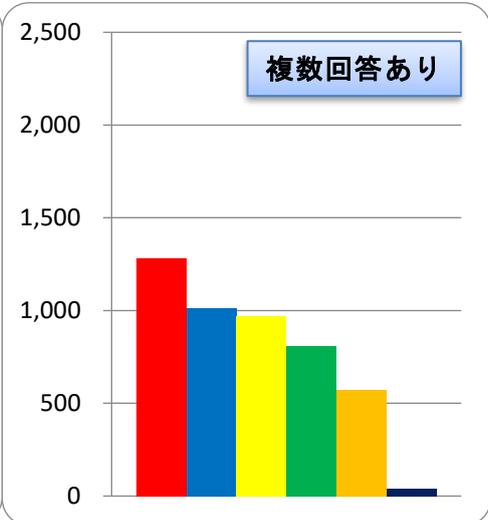
子ども所有について長野県アンケート参加市町村の集計結果と比べると、佐久市は、小学生は3%、中学生は5%低く、県全体と比べて、所持率は低い状況である。

問2 ご家庭でお子様可以利用できるインターネット環境はなんですか？  
(複数回答可)

小学生の保護者



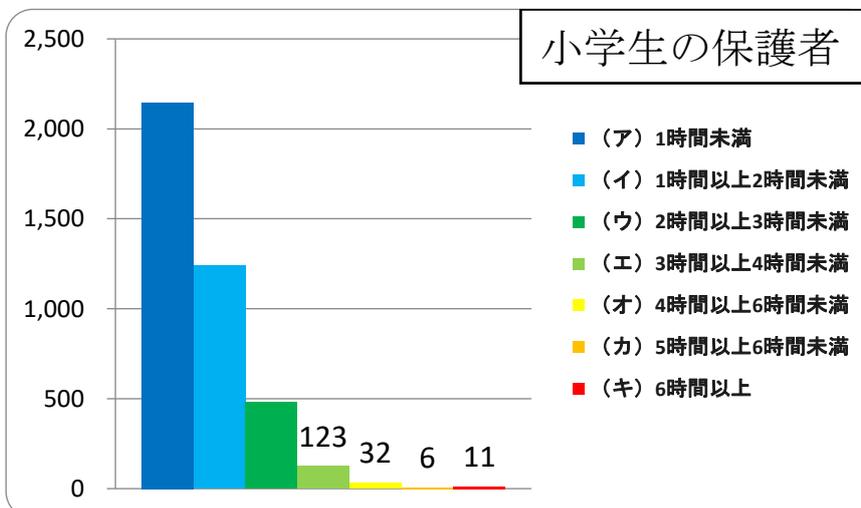
中学生の保護者



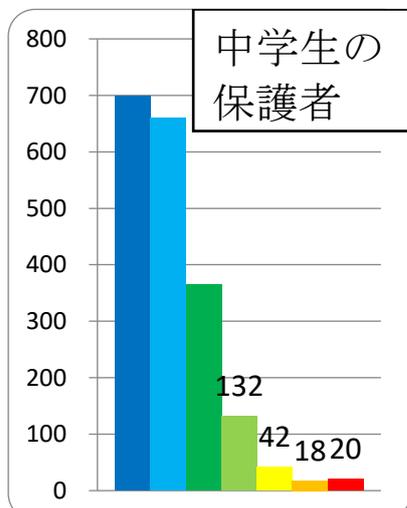
問①の結果からもわかるように、スマホの所持率は全国的にも低い長野県の中にあつて、さらに低いので、インターネット接続を行うためには、別の機器を使うことが多いと考えられる。小中学生ともに、一番多いのはスマホであるが、2, 3番目はゲーム機、タブレットがほぼ同数である。4番目は、小学生がテレビであり、中学生になるとパソコンとなる。対戦型のゲームなど、インターネット接続することで、世界中の利用者となつながらつながることができるため、見知らぬ人と対戦したり、チームを作つて遊んだり、更にその中で、チャット機能で会話をするなど、知らない人との出逢いの機会もたくさんある。パソコンからインターネット接続をすることには慎重な家庭も、ゲーム機等からのアクセスの問題点について十分に理解できていない状況もあり、この点を特に重視して啓発を進める必要がある。

問3-① 平日 (SNSやゲーム、動画視聴など、学習以外で使う時間)

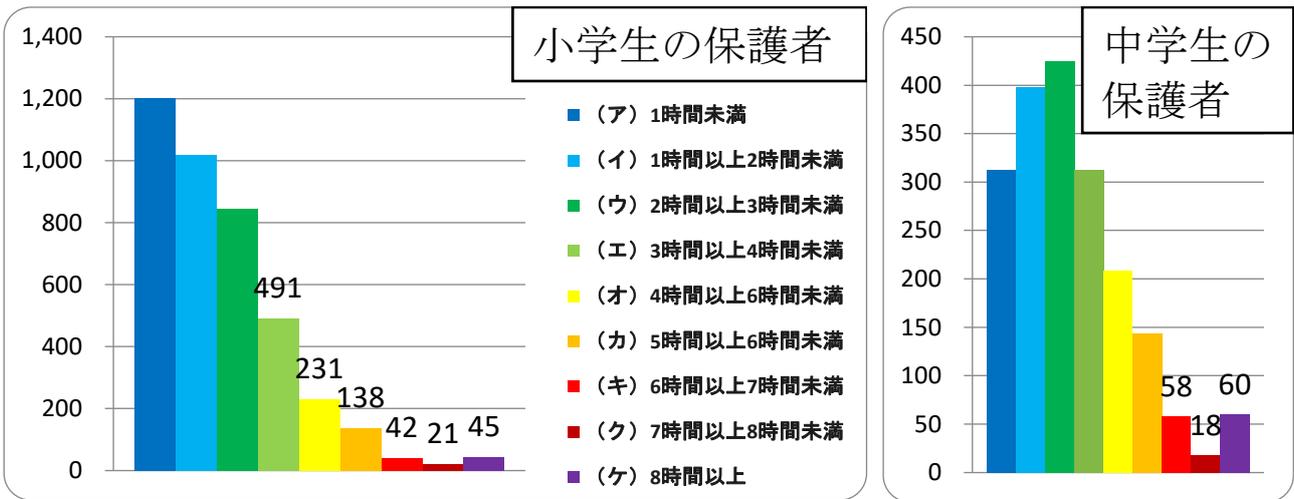
小学生の保護者



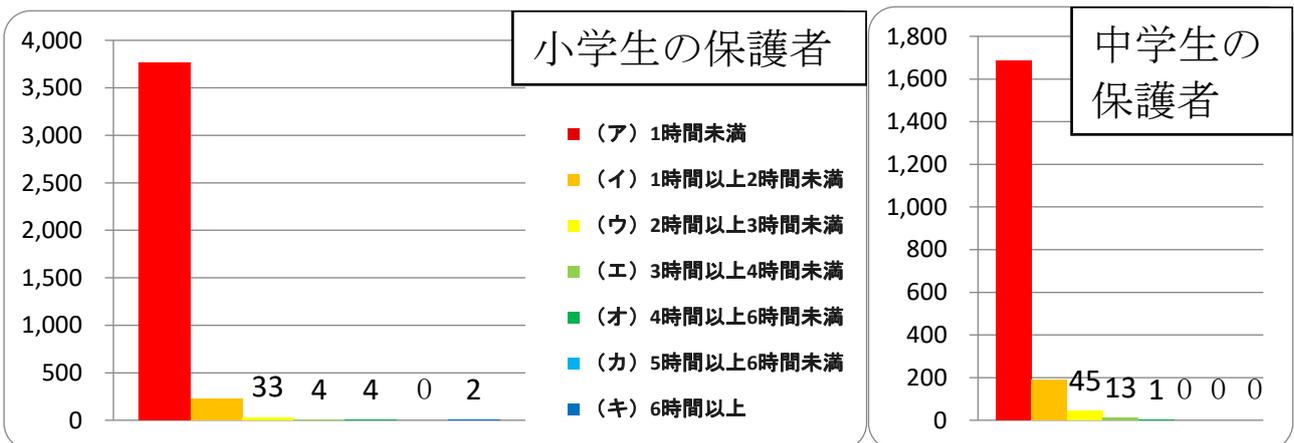
中学生の保護者



問3-② 休日（SNSやゲーム、動画視聴など、学習以外で使う時間）



問3-③ 平日（家庭学習でパソコン、タブレット等のICT機器を使う時間）

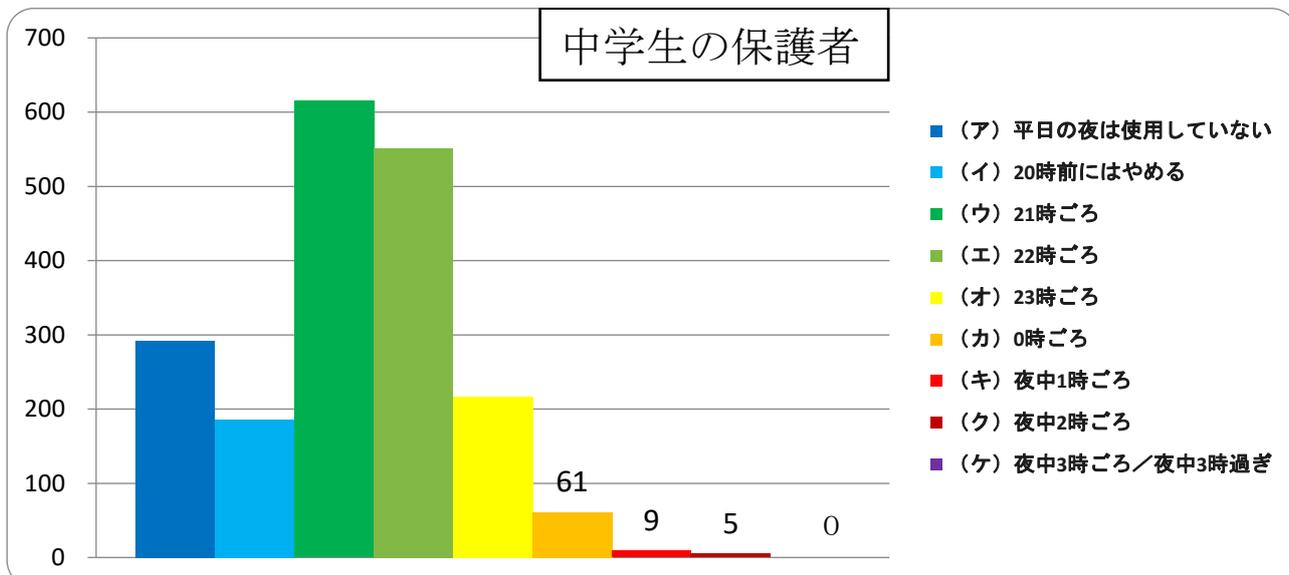
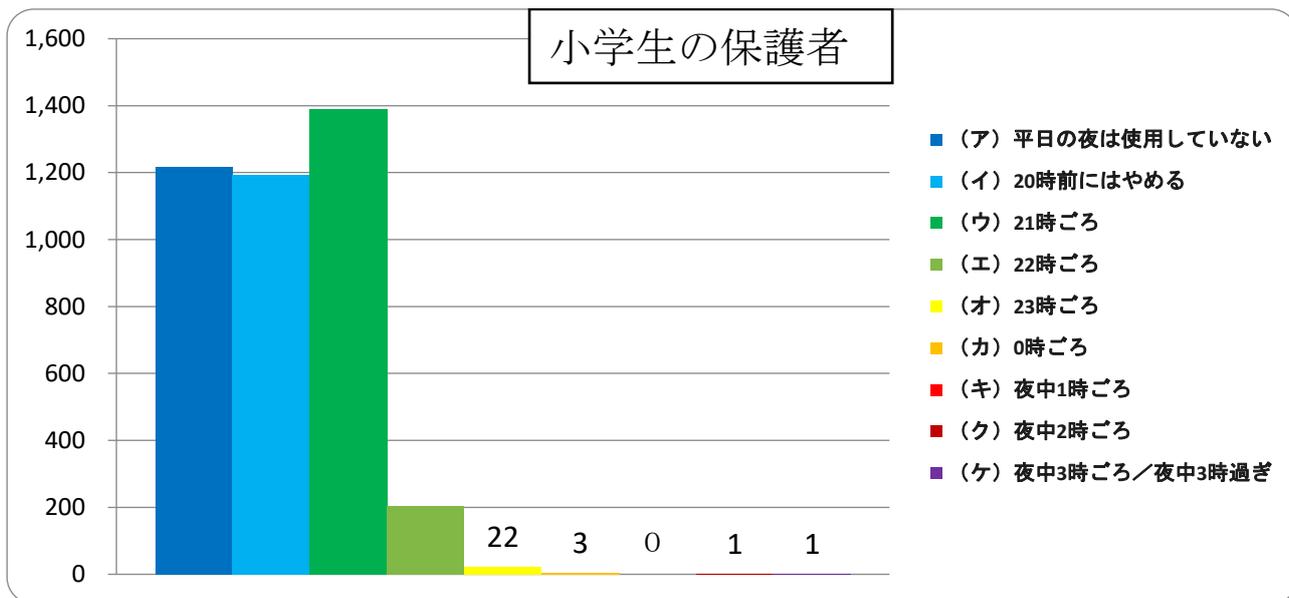


問3-④ 休日（家庭学習でパソコン、タブレット等のICT機器を使う時間）



平日、休日ともに、保護者は子どもの長時間使用の実態を認識している。子どものアンケートでも長時間の使用実態があり、保護者よりも数字が高い。保護者がコントロールできていない家庭があると考えられ、大変心配な状況である。

問4 平日の夜、ゲームや動画視聴、SNSなどを何時ごろまで  
やっていることが多いですか？



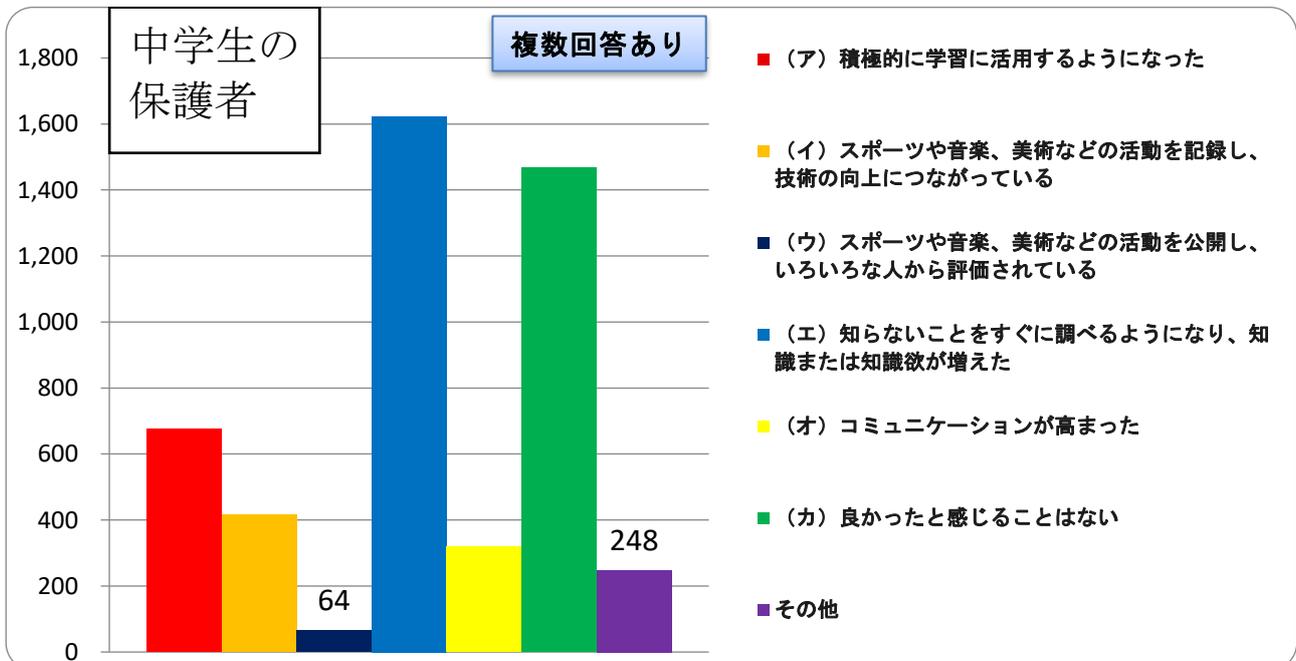
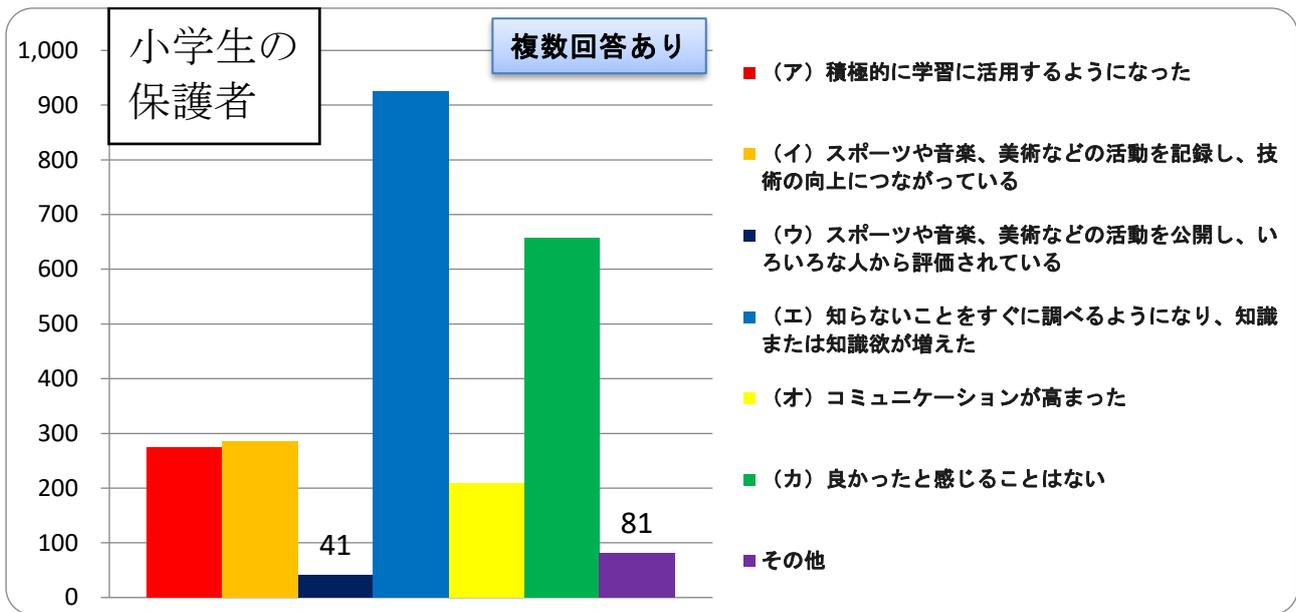
平日の夜、ゲームや動画視聴、SNSなどで使用している小学生のほとんどが21時ごろまでの使用であることがわかる。中学生になると、23時ごろには多くの生徒が使用をやめている。中学生は、使用のピークが21～23時ごろである。

小学生で23時頃以降も使用している児童がおり、夜中2時ごろ、3時ごろにも使用している児童がいることは驚きである。中学生では、0時以降の使用は小学生よりも多く、夜中の1時ごろ、2時ごろの使用も数人いる。小中学生のアンケートで、平日に6時間以上使用しているのは、このような時間と関連すると考えられる。

夜中の3時ごろまで使用していると、翌日学校に行くために、朝の時間は通常の起床であると、3～4時間しか睡眠がとれていないのではないかとと思われる。学校で授業中に眠ってしまったたり、朝から大きなあくびをしたりしている児童生徒を見かけることがあるが、このような生活リズムによるところがあるのではないかと心配になる。

さらに、大変心配になるのは、小中学生ともに、0時以降も使用している小中学生がいることである。そして、保護者もそれを承知している。

問5 お子様がスマートフォンやパソコン、タブレット等を使うようになってよかったですと感じていることはありますか？（複数回答可）



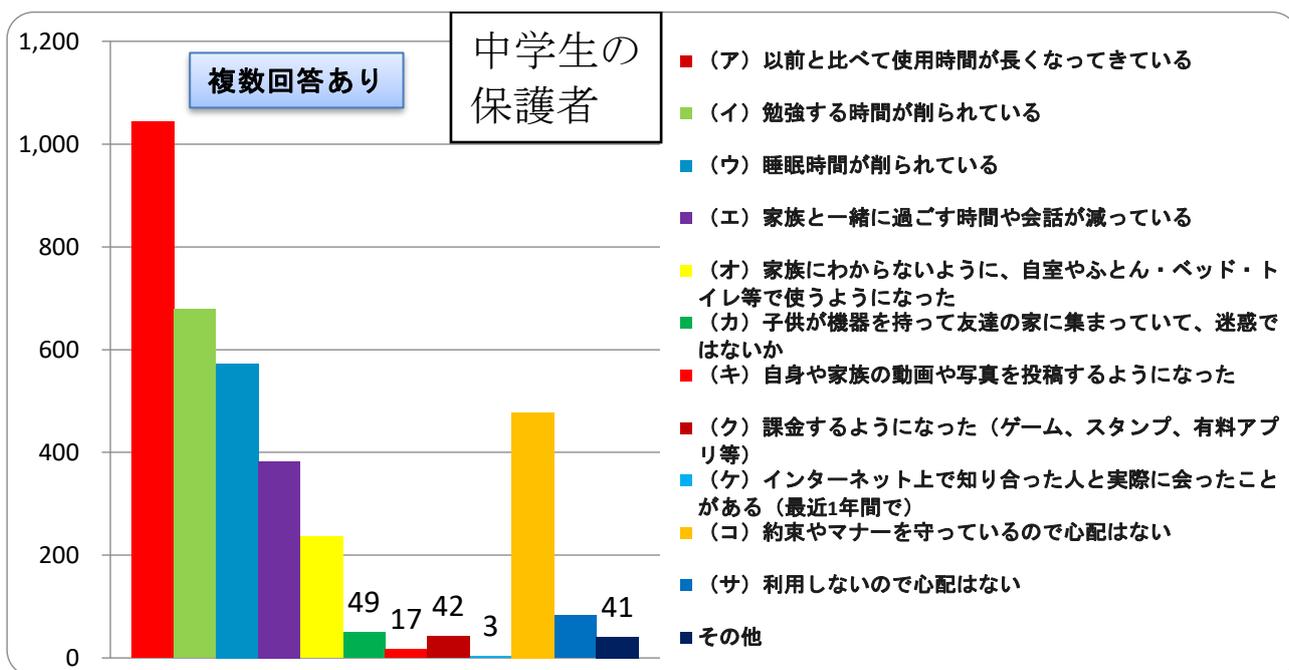
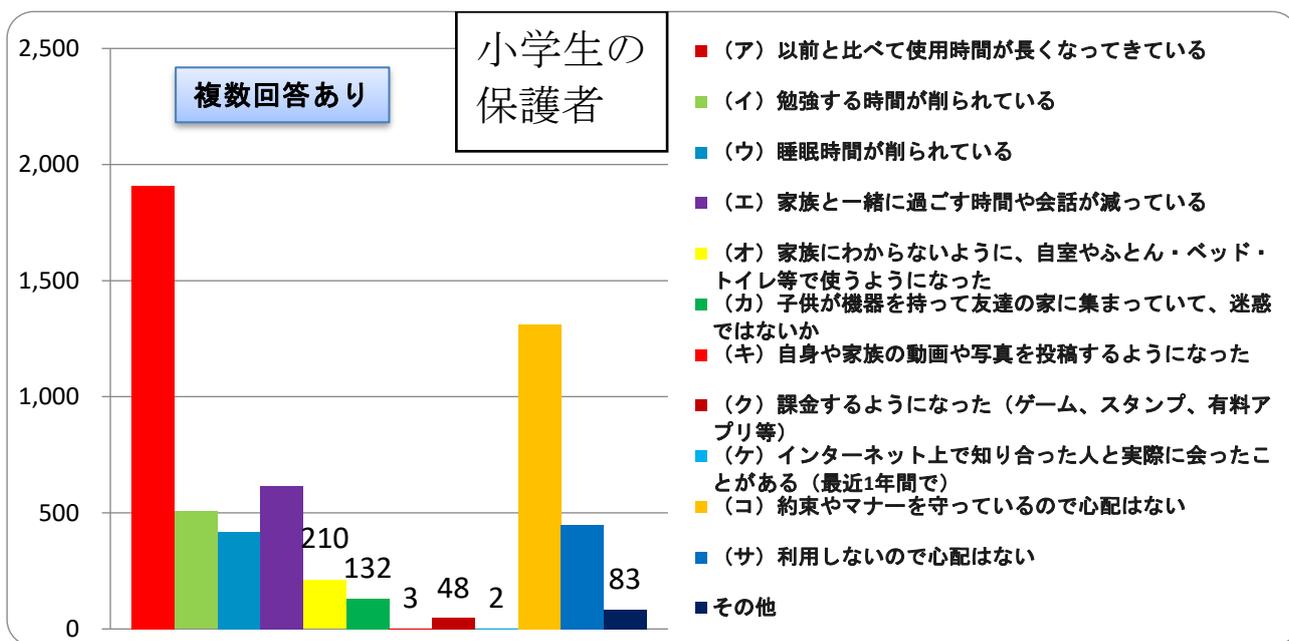
小中学生ともに、保護者がよかったと感じていることは「(エ) 知らないことをすぐに調べるようになり、知識または知識欲が増えた」である。

2番目は「(カ) よかったと感じることはない」が多い。小学生の保護者の約36%、中学生の保護者の約34%がこの回答であり、全体の約3分の1強の保護者が子どもの使用について否定的な思いがあることがうかがえる。

3、4番目は、小中学生ともに「(ア) 積極的に学習に活用するようになった」「(イ) スポーツや音楽、美術などの活動を記録し、技術の向上につながっている」であり、子ども自身の活動としてのICT機器活用の場面があることがわかる。

5番目に多い「(オ) コミュニケーションが高まった」は、子どもと親のコミュニケーションツールとしての評価と、家族以外の人とのコミュニケーションとしての評価の両方が含まれていると考えられる。

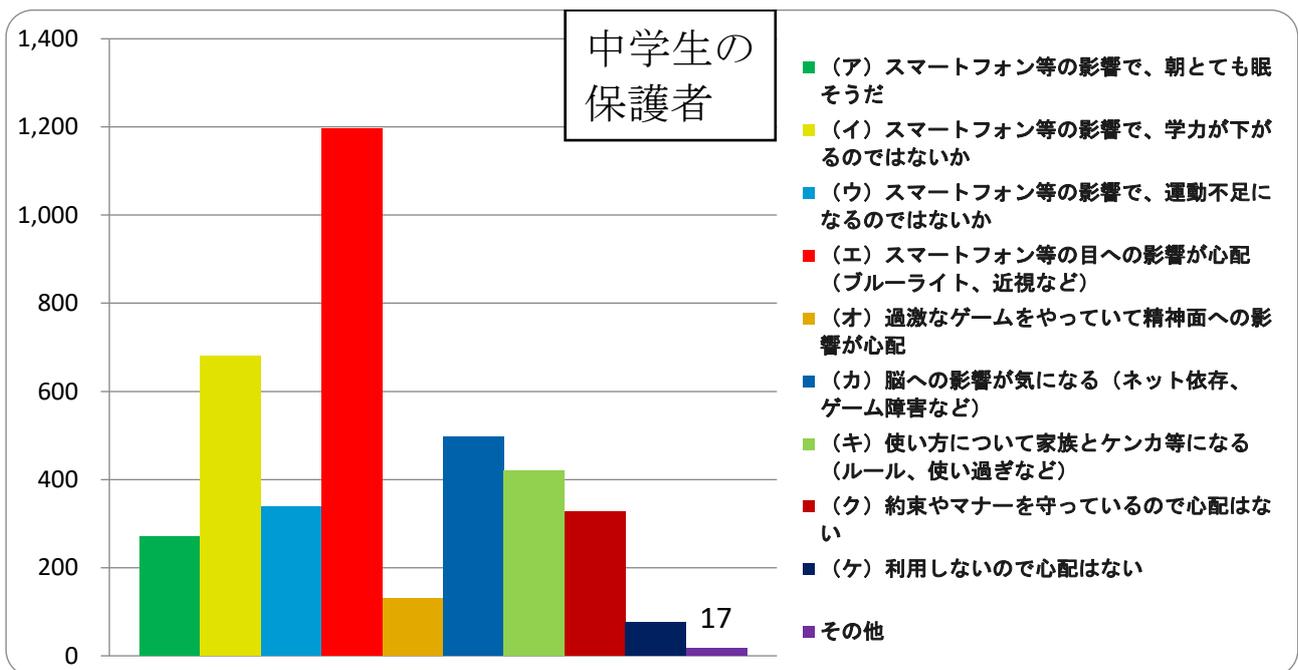
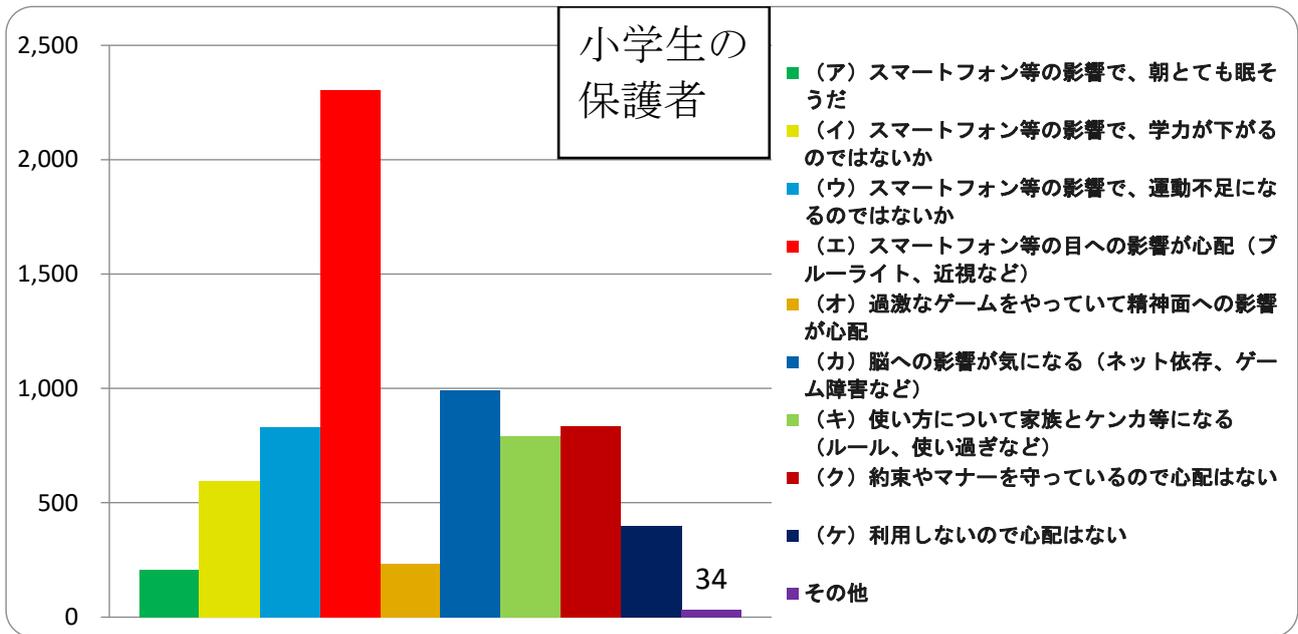
問6 お子様のインターネットやゲーム機等の利用について、  
使い方に関して心配なことはありますか？（複数回答可）



「(ア) 使用時間の増加」を心配する意見が小中学生の保護者はともに一番多い。小学生では、2番目に「(コ) 約束やマナーを守っているので心配はない」が多く、小学生はおおむね保護者のコントロール下にあると考えられる。それに対して、中学生ではその数は大きく下がり、「(イ) 勉強時間や(ウ) 睡眠時間が削られている」ことを心配している保護者が多くなる。これは、中学生本人のアンケート結果とも一致しており、中学生が勉強時間や睡眠時間を削って、電子メディアを使用していることは間違いないと考えられる。

小学生では、3番目に「(エ) 家族と一緒に過ごす時間や会話が減っている」と心配している保護者が多い。子どもが思春期に向かう頃にはありがちのことではあるが、保護者の工夫により親子で過ごす時間を作り出すことも可能であると思われるので、家族で過ごす時間が多くなるように保護者の取り組みを心がけてほしい。

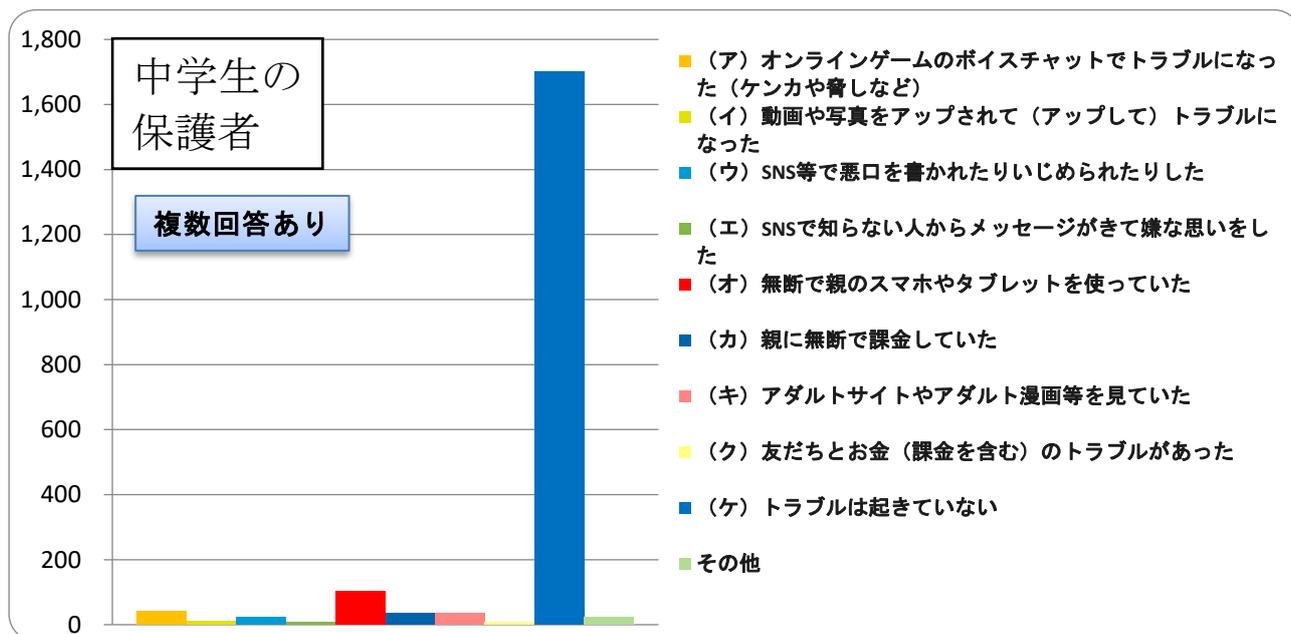
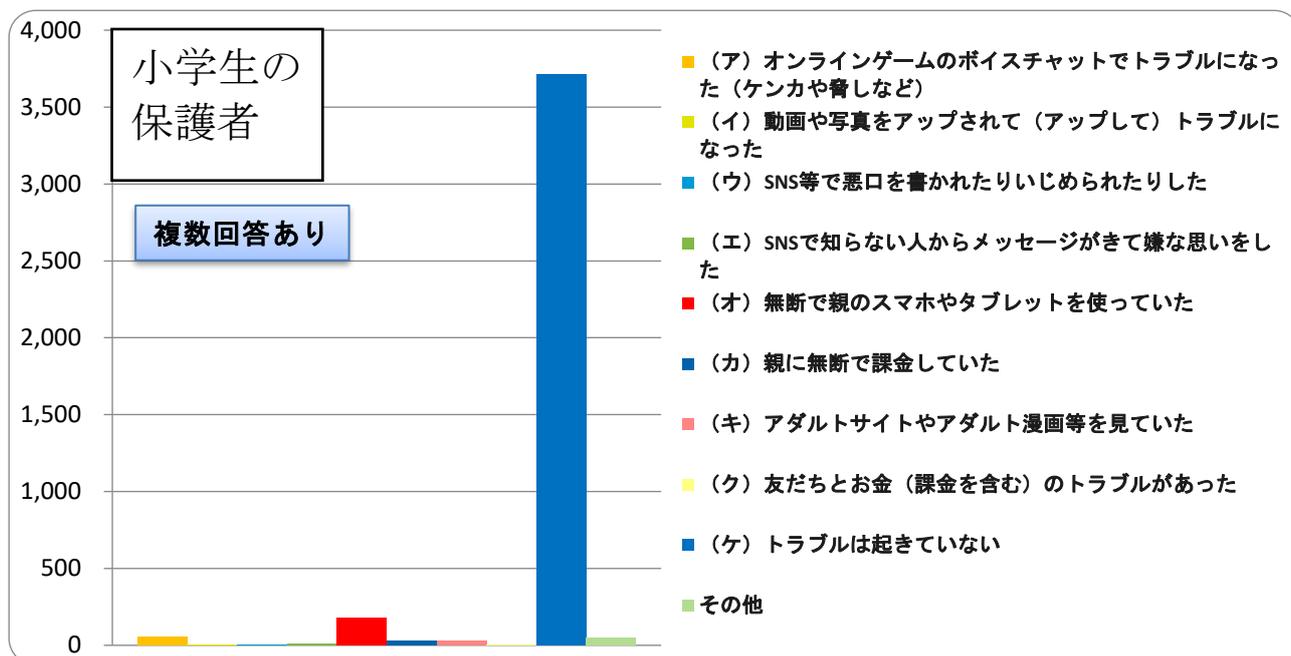
問7 お子様のインターネットやゲーム機等の利用について、  
健康面等で心配なことはありますか？



目への影響を心配する保護者が1番多い。2番目は、小学生の保護者では、脳や運動不足を心配していることから、心や体の成長を心配していることがわかる。中学生の保護者は、学力の低下をあげており、中学校卒業後の進路選択への影響などを含め、学力への関心の高まりがあることがわかる。3番目は小学生同様、脳への影響を気にしているが、中学生の保護者の4番目は「(キ) 使い方について家族とケンカ等になる（ルール、使い過ぎなど）」となり、小学生との違いがある。思春期を迎える中学生が、保護者と価値観のずれを感じ始め、反抗期に入ることからも、起こりうる状況である。

「(ク) 約束やマナーを守っているため心配はない」家庭も一定数あり、親子での話し合いなどにより、また、保護者が見せる姿勢などで、子どもたちが納得して自己コントロールできるようになることが望ましい。

## 問8 お子様実際にトラブルが起きたことはありますか？（複数回答可）

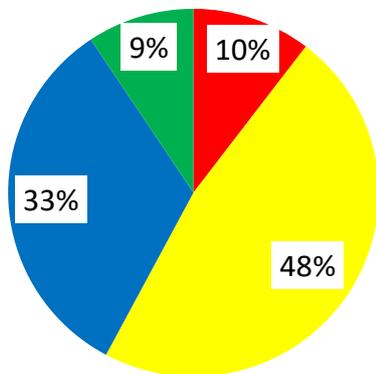


「(ケ) トラブルは起きていない」と思っている保護者が、小中学生ともに圧倒的に多い。事実がそうであれば心配ないが、子どもたちのアンケート結果には、たくさんのトラブルを経験していることが示されており、保護者と子どもとの認識に大きなずれがある。学校からの報告から、子どもたちはトラブルがあったことを正直に伝えると、使用禁止になってしまうことをおそれ、黙っていることが多いようである。

子どもたちの経験したトラブルの多くは、「(オ) 無断で親のスマホやタブレットを使っていた」ことによる場合が多い。特に課金に係るトラブルは、保護者のスマホなどで、クレジットカード決済の設定をしてあると、自動的に課金や買い物などができてしまうことから起きるケースが多い。翌月や2ヶ月後に覚えのない請求がくることで発覚することがほとんどである。

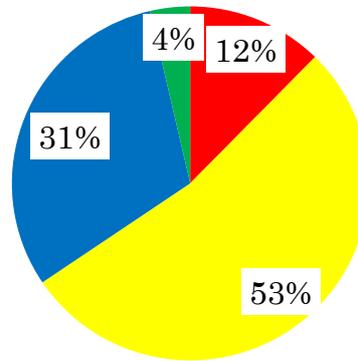
## 問9 お子様はスマートフォンやゲーム、インターネット等にどのくらい夢中になっていますか？

### 小学生の保護者



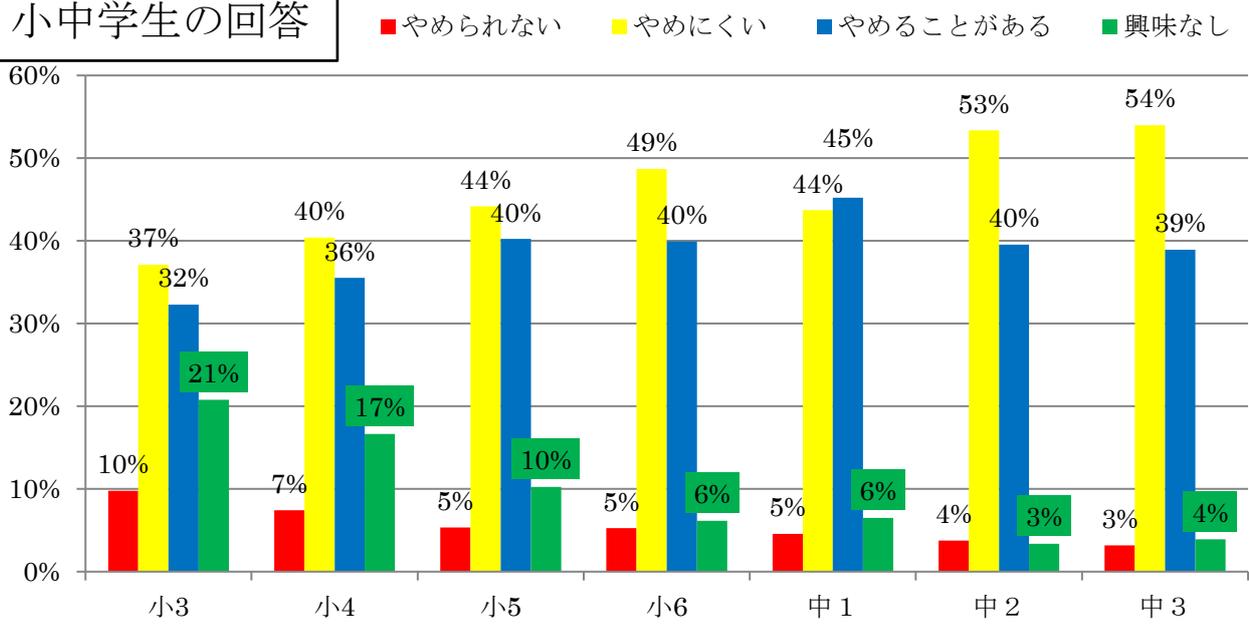
- (ア) 夢中になりすぎており、やめられない。注意するとイライラする
- (イ) 夢中になりすぎてはいないが、やり始めるとなかなかやめられない
- (ウ) 使用するが、長時間はやらない。夢中にはなっていない
- (エ) ほとんどやらない。興味がない

### 中学生の保護者



- (ア) 夢中になりすぎており、やめられない。注意するとイライラする
- (イ) 夢中になりすぎてはいないが、やり始めるとなかなかやめられない
- (ウ) 使用するが、長時間はやらない。夢中にはなっていない
- (エ) ほとんどやらない。興味がない

### 小中学生の回答



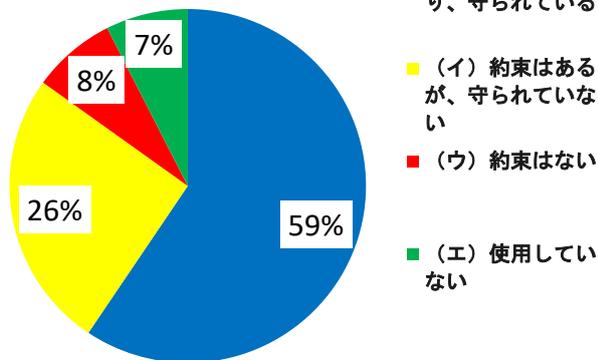
小学生、中学生の保護者ともに、約1割が「(ア) 夢中になりすぎており、やめられない。注意するとイライラする」と回答しており、ネット依存になっている可能性が大きいと考えられる。「(イ) 夢中になりすぎてはいないが、やり始めるとなかなかやめられない」も含めると、約6割がネット依存症予備軍と考えられる。

子どもたちの回答との比較では、子どもは「やめられない」が学年とともに減少し、中学3年生では3%にまでなり、親から見た子どもの様子とにずれがある。親が心配するほどには、子ども自身は自覚がなく、客観的に自分を見ることができていない子どもこそ心配である。

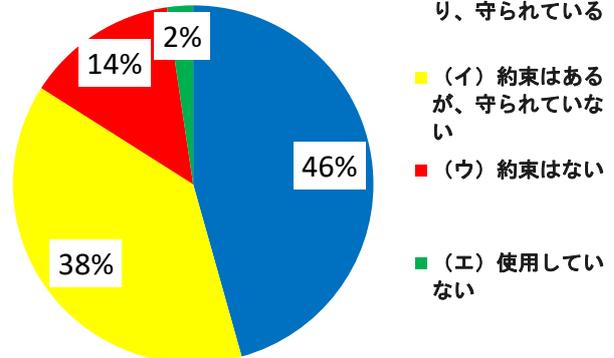
GIGAスクール構想により、子どもたちが電子メディアに触れる機会が増加している時であるからこそ、自己コントロールしながら電子メディア機器を適切に使用できる子どもを育てたい。

問10 お子様のインターネットやゲーム機等の使用について、  
家庭での約束があり、守られていますか？

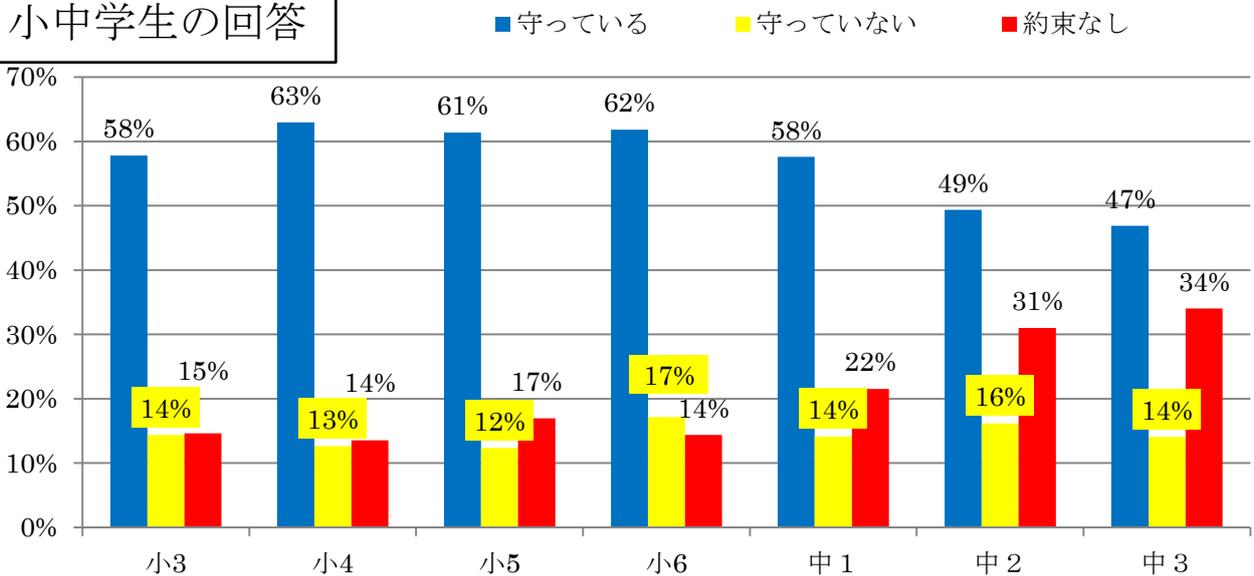
小学生の保護者



中学生の保護者



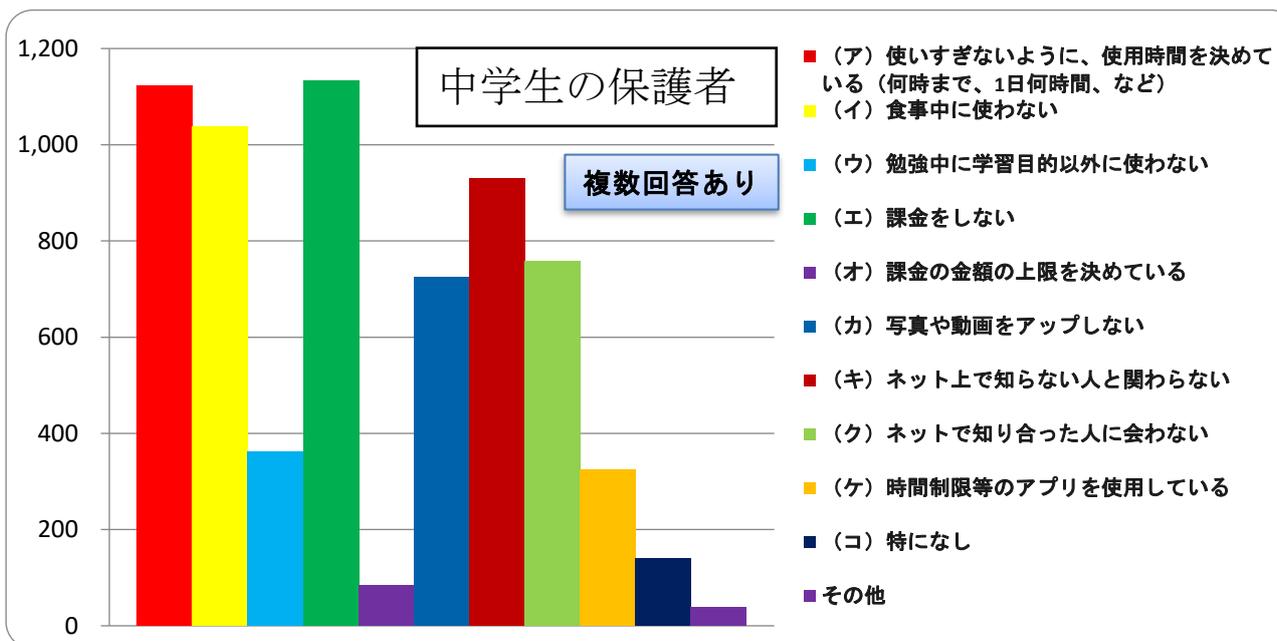
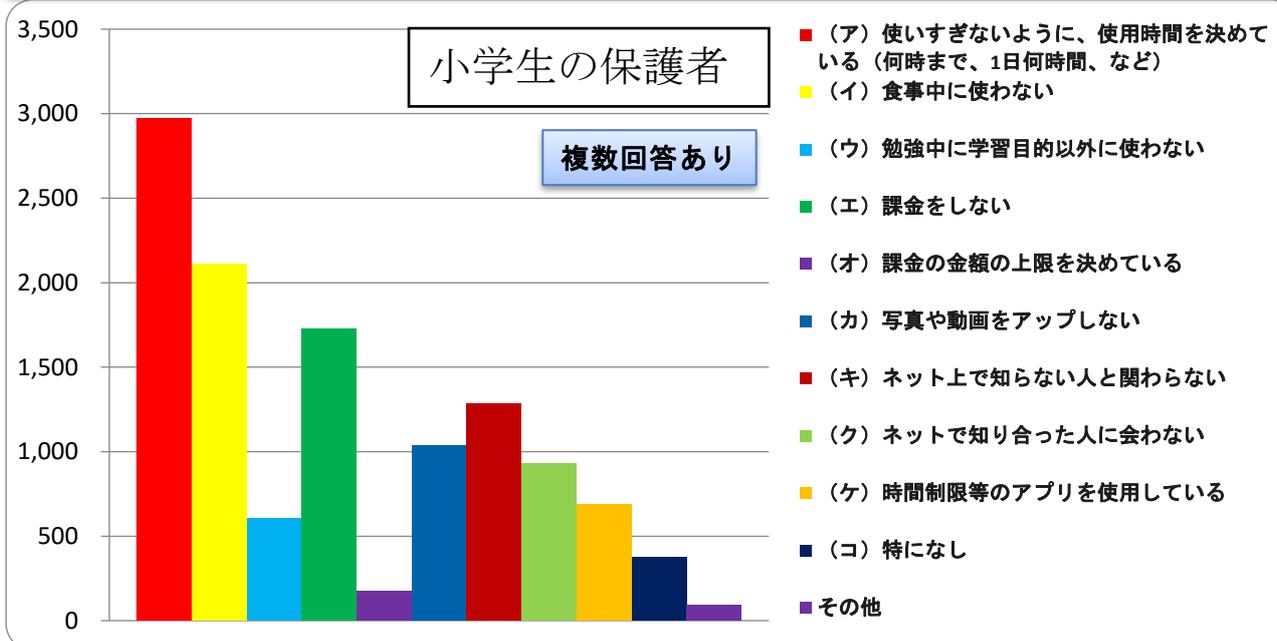
小中学生の回答



昨年度同様に、小学生保護者の8%、中学生の保護者の14%が「約束はない」と回答しているが、子どもたちの回答ではそれを上回る小学生の約15%、中学生の約30%が「約束はない」としており、どちらもおおよそ2倍となっている。保護者は、約束のもとにスマホやゲーム機等を使用させているつもりであっても、子どもたちは「約束がない」ものとしてとらえている。保護者の約3割が、「約束はあるが守られていない」と思っているが、子どもは「約束を守っていない」が2割弱であり、その差が「約束はない」にカウントされたものと考えられる。買ってもらうときは約束があったのだが、使っているうちに「約束がないがごときになっている」という可能性がある。この結果は、ここ数年大きな変化がない。

この認識のずれは、ネット上でのトラブルについての回答の子どもと保護者の認識のずれと一致している。子どもの使用実態を保護者がしっかりと把握した上で使用する目的や時間をコントロールしていく必要がある、子どもにスマホやゲームの使い方を任せるのであれば、心のコントロールの仕方や相手を考えた言葉の使い方などの力を子どもに身に付けさせて、適切に使用することができるようにしていくことが重要であろう。

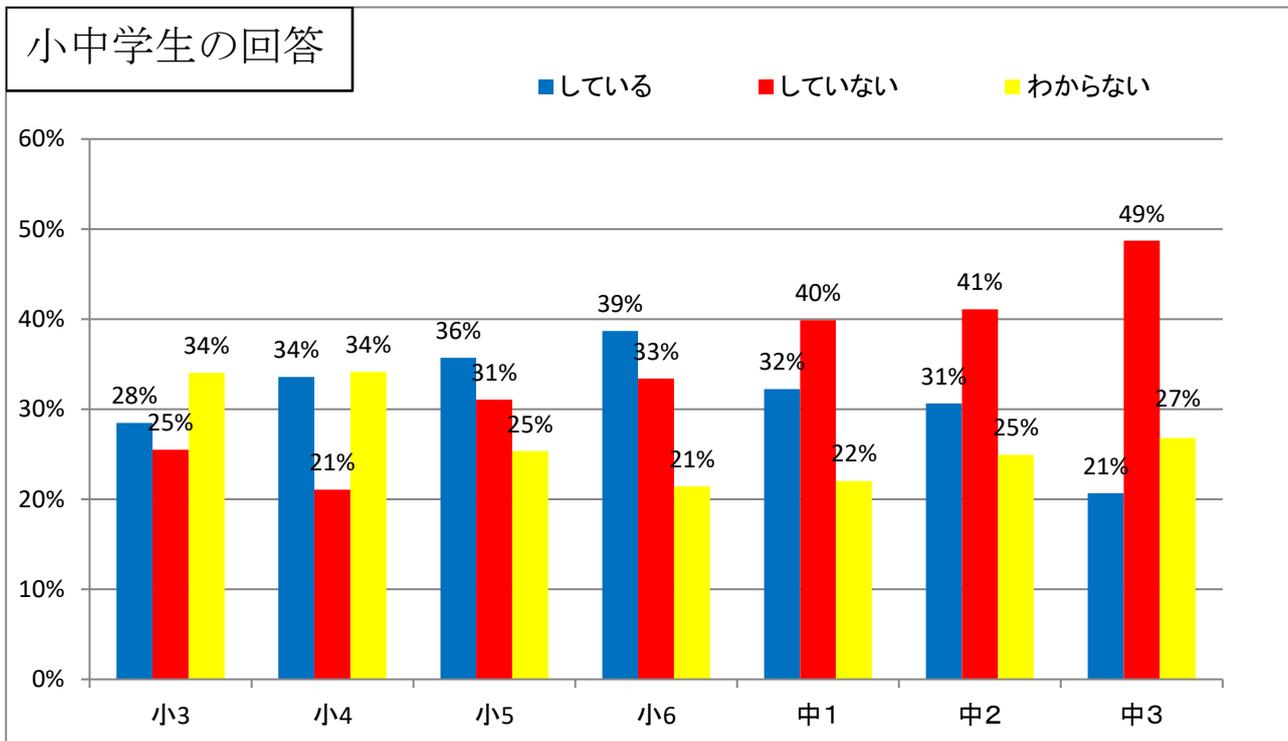
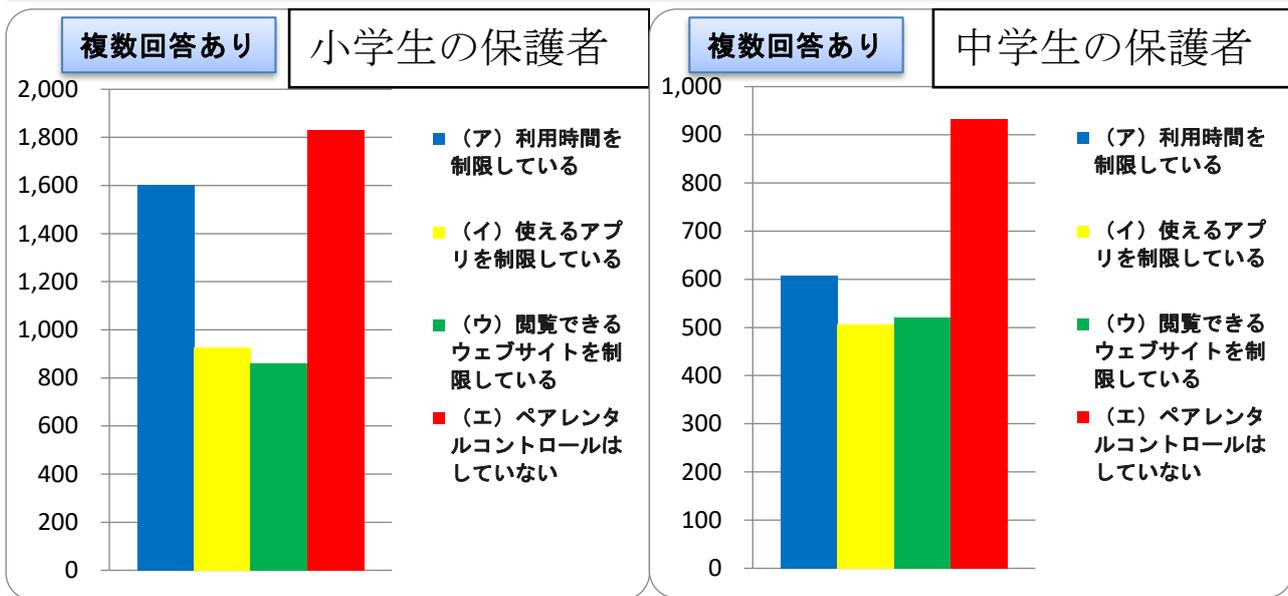
問11 お子様のインターネットやゲーム機の使用において、心がけさせていることや決めていることはありますか？（複数回答可）



今年度初めて行った質問項目である。小中学生ともに「(ア) 使いすぎないように、使用時間を決めている（何時まで、1日何時間、など）」が多い。次に「(イ) 食事中に使わない」「(エ) 課金をしない」が多い。4番目には「(キ) ネット上で知らない人と関わらない」が多く、たくさんの危険性を想定して、保護者としてのコントロールを行おうとしている家庭が多いことがわかる。

その反面、「(コ) 特になし」が小中学生それぞれにあり、あわせると500人を超えていて、子どもが電子メディアを自由に使えるような状況であることが心配される。「(オ) 課金の金額の上限を決めている」家庭もある。金額を決めてあっても、子どもが課金をできる状況にあるということは、金額のコントロールを子どもの自制心に任せることになるのではないか。ユーザー権限の設定などにより、使用範囲の制限をかけるなど、万が一に備えた対策は必要であると思う。

問12 時間制限やアプリの制限など、ペアレンタルコントロールをしていますか？（複数回答可）

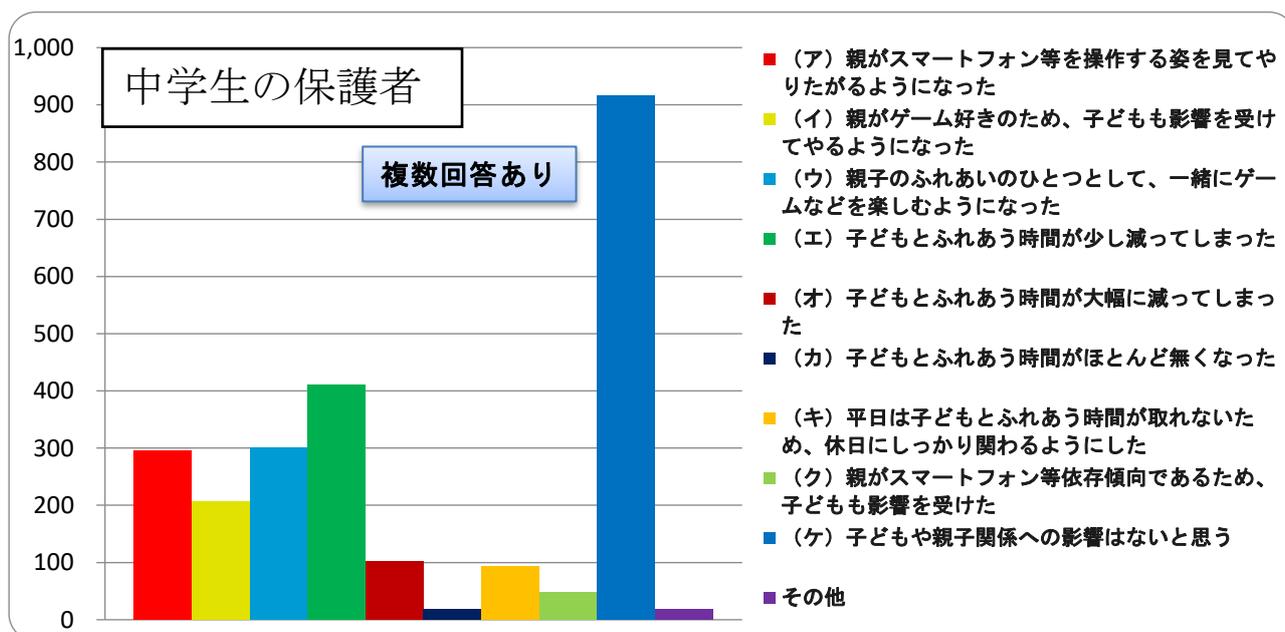
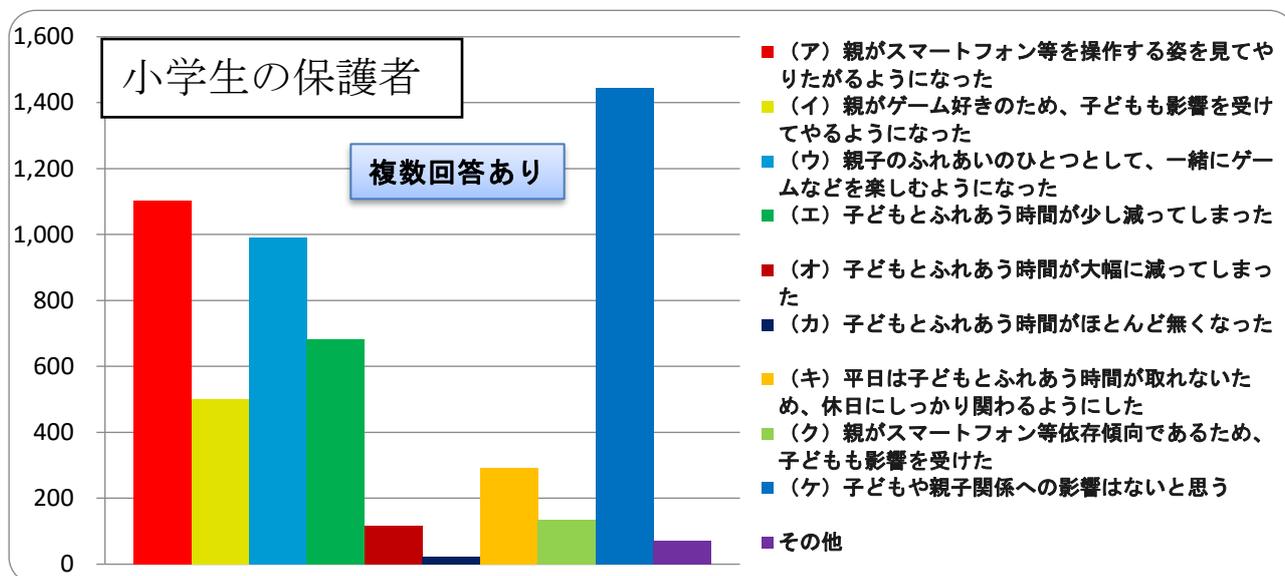


小中学生の保護者は、ともに全体の5割以上が何かしらのコントロールをしている。「(ア) 利用時間を制限している」が一番多く、小学生の保護者の方が、利用時間制限を行っている割合が少し高い。「(イ) 使えるアプリを制限している」「(ウ) 閲覧できるウェブサイトを制限している」がほぼ同数で、どちらも全体の約2割である。

小学生は、親がペアレンタルコントロールをしていることを知らない場合があるが、中学生では、親はペアレンタルコントロールしているのに、子どもはしていないと感じている子が多く、ペアレンタルコントロールが機能しているのか、子どもたちが親の考える範囲内で利用しているために感じないのか、アンケート結果からはわからない。

「(エ) ペアレンタルコントロールはしていない」が回答数の約46%であることから、必要最低限の危機管理は親として、行ってほしいところである。

問13 親のスマホ、タブレット、ゲーム機等の使用によって、子どもや親子関係への影響が出ていると思うことはありますか？（複数回答可）

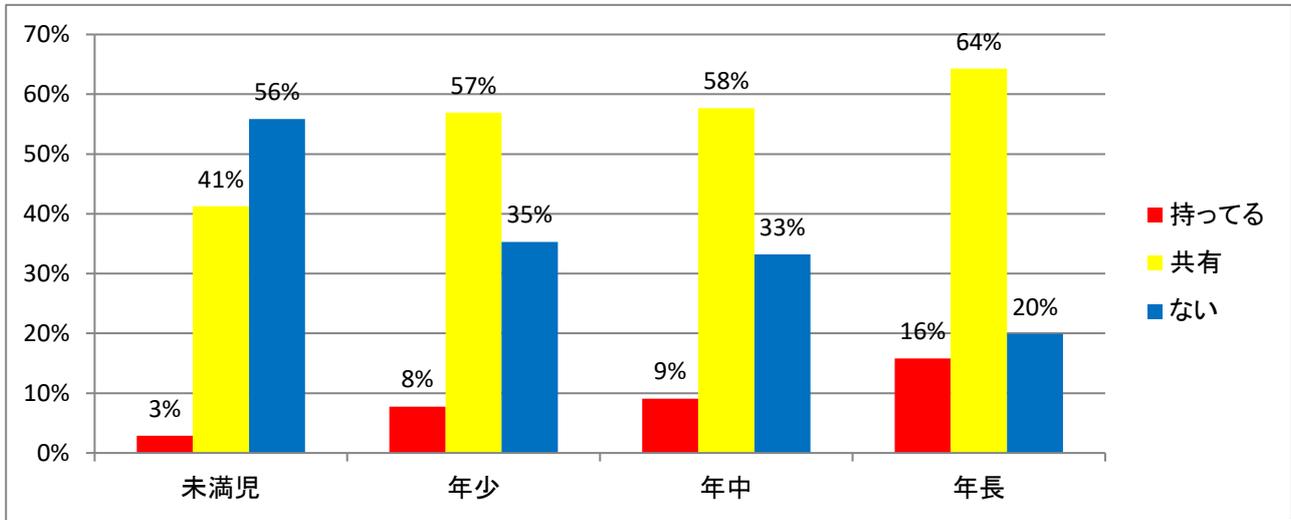


「(ケ) 子どもや親子関係への影響はないと思う」の回答が、小中学生の保護者ともに最も多い。小学生の保護者で全体の約36%、中学生の保護者で全体の約47%である。幼保園では、影響があると感じている保護者が多く、小学生、中学生と数字が上がる。しかし、前出のいくつかの問いから、子どもの心や体への影響、使い方等を心配していることから、無関心なわけではないことがわかる。

影響があると感じている保護者は、小学生では「(ア) 親がスマートフォン等を操作する姿を見てやりたがるようになった」が最も多く、次に「(ウ) 親子のふれあいのひとつとして、一緒にゲームを楽しむようになった」が多い。中学生では、「(エ) 子どもとふれあう時間が少し減ってしまった」が最も多く、「(ウ)」「(ア)」がこれに続く。影響を肯定的にとらえる面と否定的にとらえる面の両面があり、よりよい親子関係づくりのために使い方を工夫していることがうかがえる。

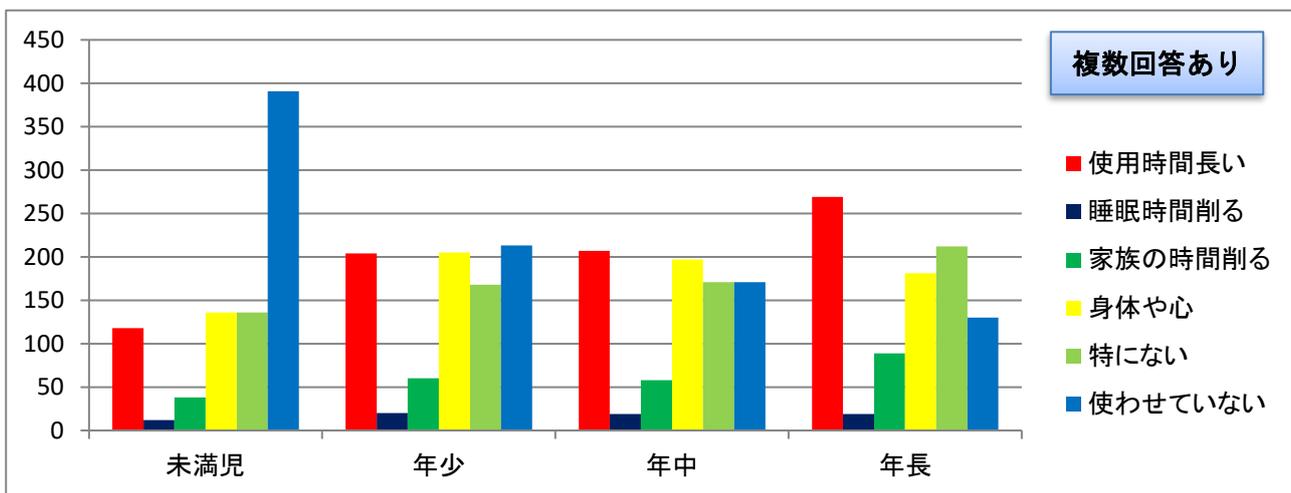
### (3) 幼稚園・保育園保護者アンケートの結果から

問① お子様が見えるゲーム機や、ゲームができるタブレット（アイパッド等）はありますか？



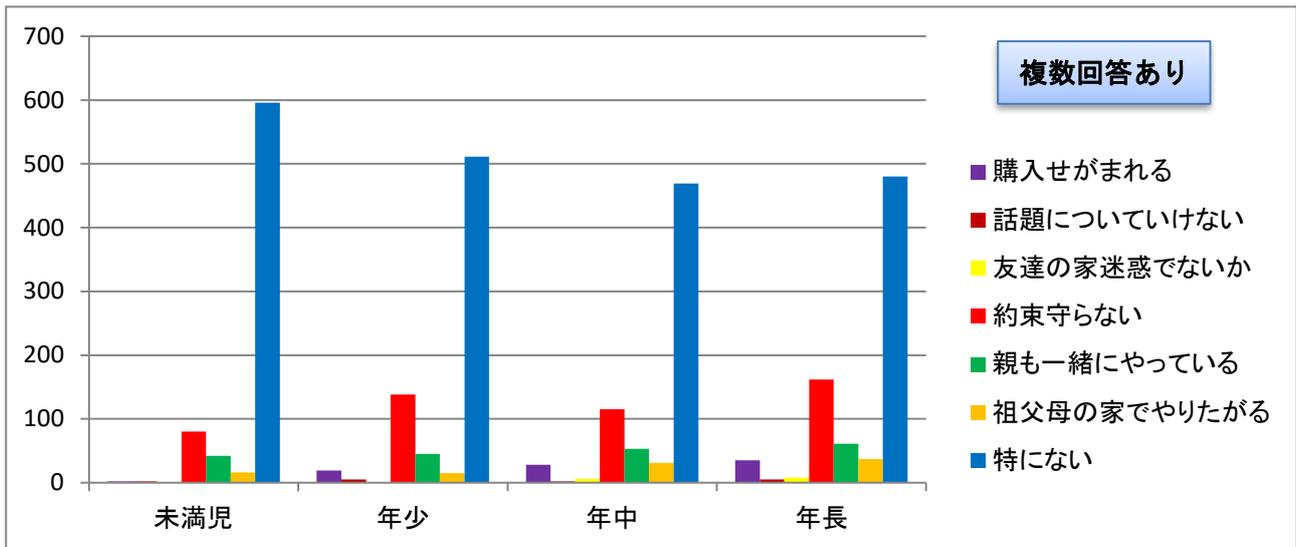
共有で見える子どもが多く、未満児で41%である。年少～年長では、「持っている」「共有」を合わせると、6～8割前後の子どもが何らかの形でゲーム機等に触れている状況がわかる。昨年度と比べて、どの年齢もさらに少しずつ増加している。年長では、16%が自分で見えるゲーム機等を持っており、昨年度年中時には8%であったことから、倍増している。年々、ゲームに触れる園児が増えている状況である。

問② お子様が見るスマホ、タブレット、ゲーム機等を使うことについて心配なことはありますか？（いくつ選んでも良いです）



子どもがタブレット、ゲーム機等を使うことに関しては、心配なことは「特にない」「使わせていない」という回答が未満児では多いが、年少から「使わせていない」は年齢が上がる毎に減少している。心配なことが増え、「使わせていない」が減ることから、年少あたりから子どもの使用が増えていくことがわかる。保護者が承知して使わせていると思われるが、低年齢からの使用が増えることは、電子メディア機器が生活に欠かせないものとなってきているとはいえ、心配なことである。使用が増えていることから、昨年度までは、「身体や心への影響」を心配する項目が、他の項目よりも多い状況だったが、今年度は、心配の内容が他の項目へも広がっていると考えられる。

問③ その他、対応に困ることなどありますか？  
(いくつ選んでも良いです)

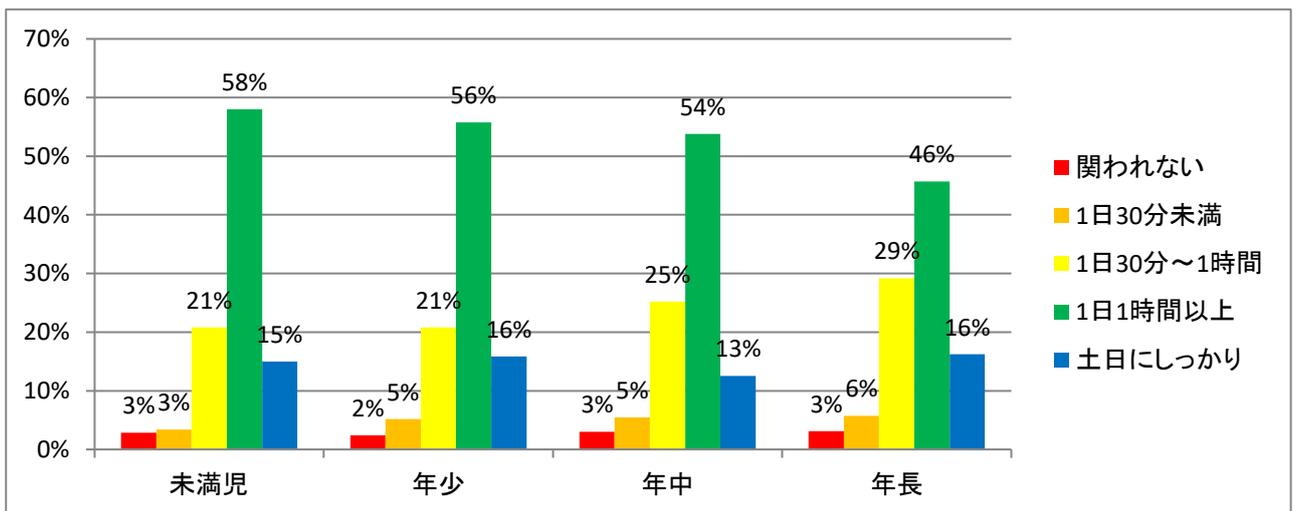


ほとんどの家庭で対応に困ることは「特にない」と回答しており、問②で心配していること以外は、昨年度とおおむね変わらない状況である。

しかし、年少の「約束守らない」の数が約 1.5 倍に増加しており、年少から親が子どもをコントロールすることに、課題を感じ始めることがわかる。

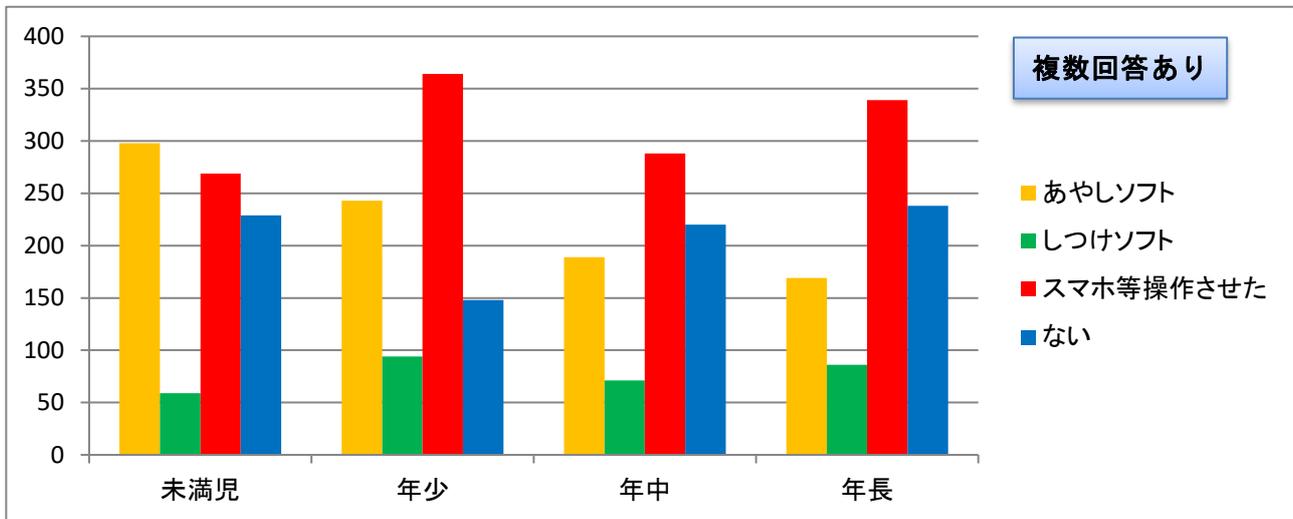
昨年度は比較的少なかった「親も一緒にやっている」が 2 番目に多くあげられている。3 番目の「祖父母の家でやりたがる」と逆転している。ただ、「約束を守らない」以外は、ほとんどの回答で横ばいである。

問④ 子どもとのふれあいについてお答えください。



1日1時間以上子どもとのふれあいをしている家庭が最も多く、30分未満であっても子どもとのふれあいの時間を持とうとしている状況が見られる。平日に時間がとりづらい家庭は、土日などの休日にしっかりと子どもとふれあう時間を生み出している。昨年度と比べて「関われない」家庭は横ばいであり、一定数認められる。保護者が子どもとふれあうことは、電子メディアと付き合い方に限らず、子どもたちの人間形成の上で大変重要なことであるので、今後も工夫して行ってほしい。

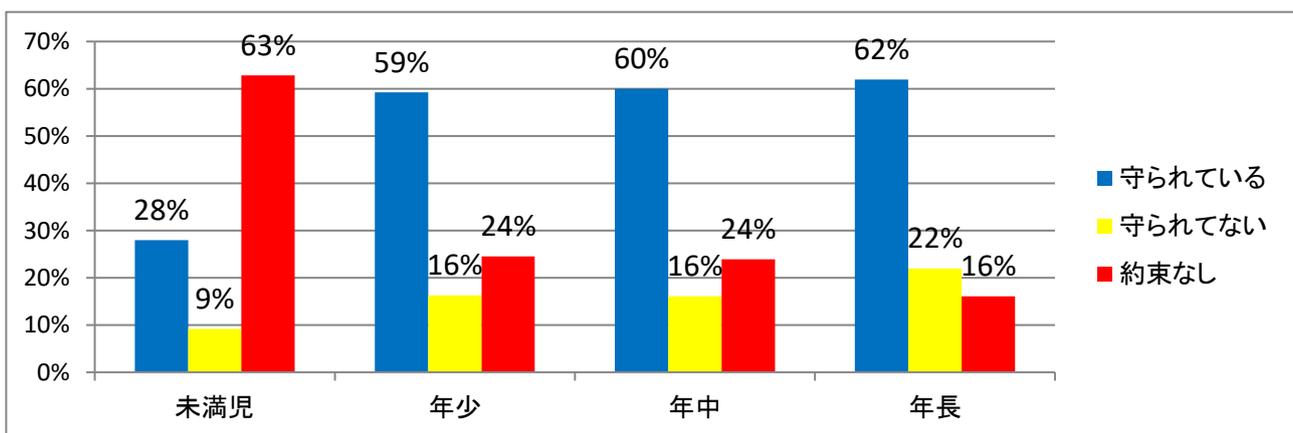
問⑤ 最近の1年以内で、子どもを落ち着かせたいときや言うことをきかせたいときに、スマホ・タブレットやゲーム機等に、頼ったことはありますか？  
(いくつ選んでも良いです)



多くの保護者がスマホ・タブレット・ゲーム機等にたよった経験があると回答している。「スマホ等を操作させた」が多く、「あやしソフト」が2番目に続く。頼ったことはないと回答した保護者は、全体の26%である。昨年度よりも若干増えており、頼らずに対応する保護者が増えていることがわかる。年長では、昨年度よりも100人近くが「ない」となっている。

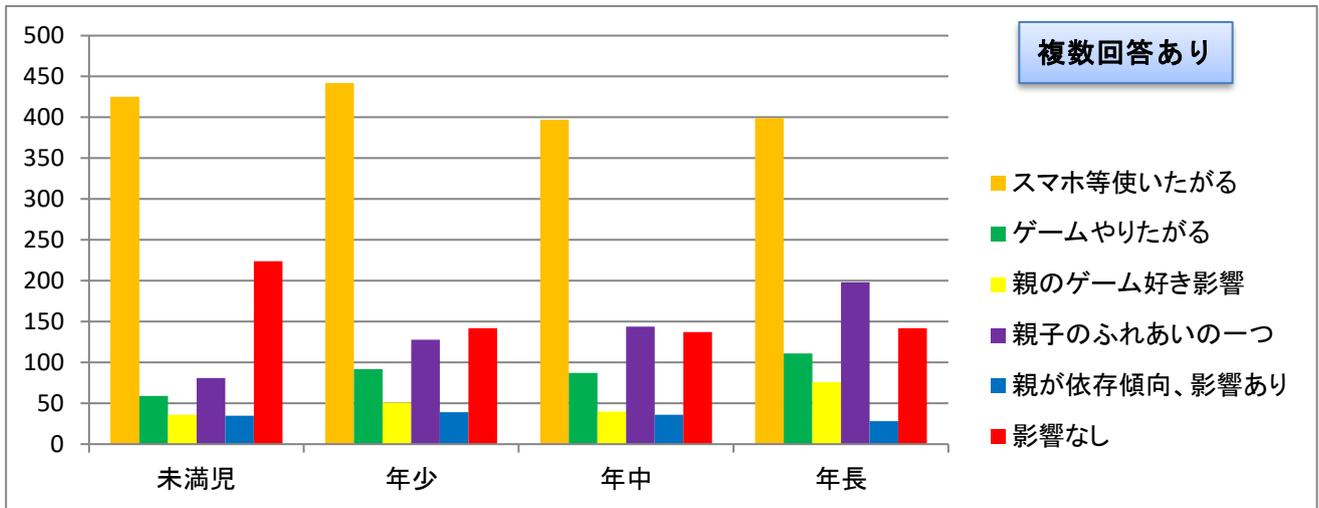
年少児の利用実態が多いことは、この統計にも表れており、「スマホ等操作させた」は年少が最も多い。

問⑥ タブレット、ゲーム機を使うときの子どもとの約束はありますか？  
※使用しているお家だけ教えてください。



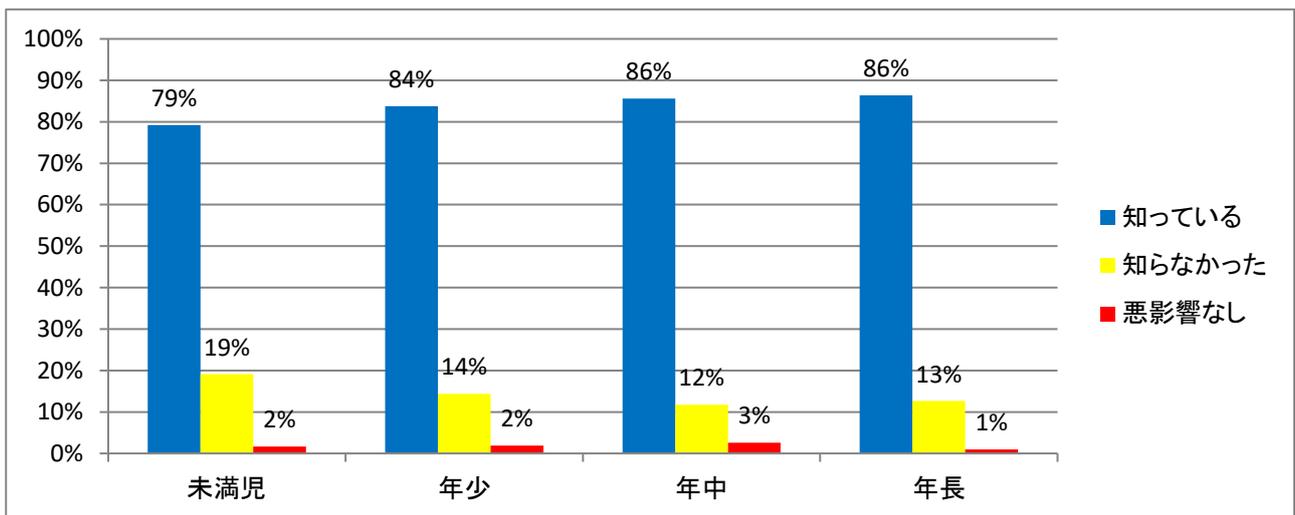
全体の傾向としては、ここ数年大きく変わっていない。「約束なし」が昨年度は減ったが、今年度は増加している。「守られている」割合は、年少、年中、年長ともに、昨年度とほぼ同じである。反対に、「守られていない」は、昨年度よりわずかつ減少している。年長では2割超の結果となっていることは残念である。未満児では、約束自体が難しい子どもが多いのではないかとと思われるが、「約束なし」が大幅に増えている。

問⑦ タブレットやゲーム機等使用について、親から子どもへの影響が出ていると思いますか？  
(いくつ選んでも良いです)



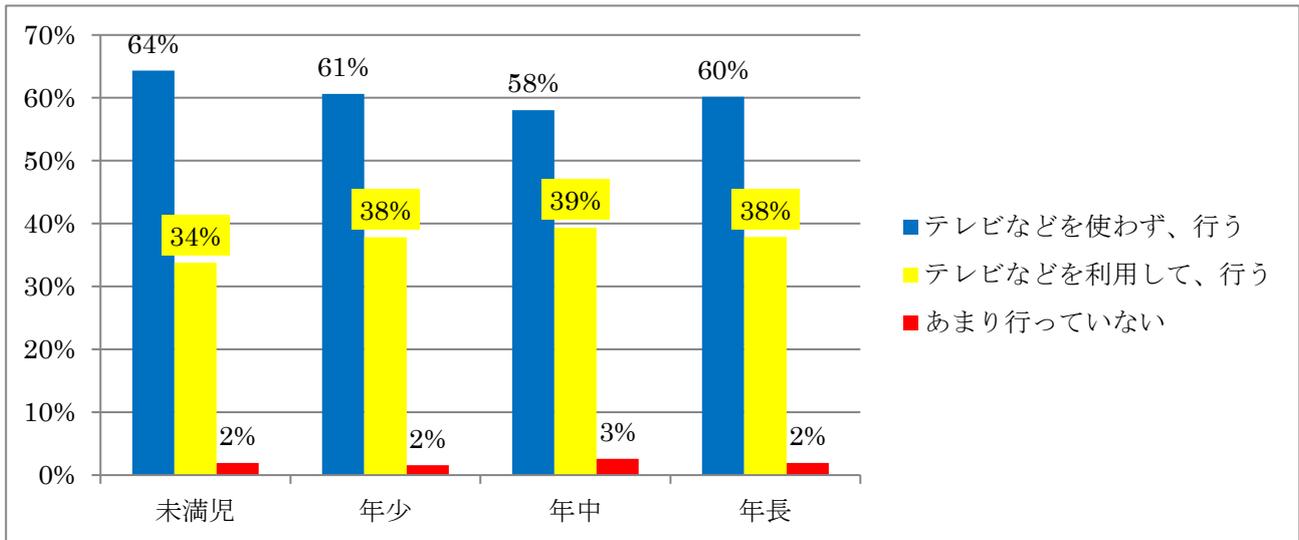
スマホを使いたがる子どもは、未満児から多く見られる。数は横ばいである。他の項目も横ばいで、子どもへの影響を実感している保護者が多い。「親子のふれあいの一つ」と考えている保護者は2番目に多い。「影響なし」は昨年度よりも、未満児では約2倍、年少以上も若干増加しており、肯定的にとらえている保護者が増えていると考えられる。保護者は電子メディア機器がなくてはならない状況の中で、保護者自らの使い方が子どもに対してどのような影響があるのか折に触れて考える機会が必要ではないだろうか。

問⑧ 電子メディアの使用が0～2歳の子どもの心や体に、大きな影響があることをご存じですか？(日本小児科医会の提言より)



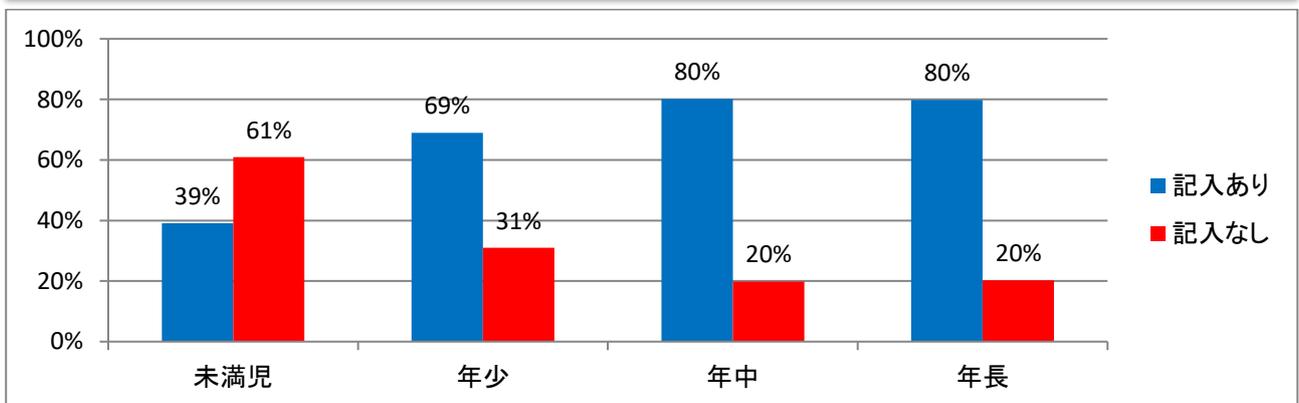
今年度新たに「悪影響なし」の回答項目を加えたところ、1～3%の保護者が「悪影響なし」と回答している。今後も、電子メディアの長時間使用による幼児期の子どもの心や体への悪影響について、小児科医会などから発信されている内容などを、保護者にさらに周知できるよう発信し続けていく必要がある。電子メディア使用の大人の心身への影響と子どもへの影響とは、大きく違いがあることを認識し、特に乳幼児期に電子メディアに接触することの問題の大きさを、大人が理解する必要がある。

問⑨ 食事の時などに、テレビや電子機器の利用などに限らず、親子の対話やふれあいを行っていますか？



親子のふれあいについて、ほとんどの家庭が、食事の時などに意識を持って実践しており、大切に考えている状況がみられる。テレビなどを使わずにふれあいを行っている家庭が全体の6割前後を占め、子どもとの会話などを大事にしている様子が見える。また、3～4割の家庭では話題のきっかけや材料としてテレビなどを利用し、ふれあいのひとときを過ごしている様子である。

問⑩ お子さんの将来のゆめは何ですか？親子で話し合ってみてください。



未満児は、「将来のゆめ」という概念をまだ持てない子が多いのかも知れないが、年少になると約7割が、年中、年長では8割以上が、「将来のゆめ」について親子で話し合うことができている。なお、「記入なし」であっても、話し合ったけれどまだ具体的に「ゆめ」を持つところまで行かないというケースも考えられ、このような話題を親子で持つこと自体が大切なふれあいの機会であり、親から子への愛情表現ともなっていると考える。

<多かった回答>

警察官、ケーキ屋さん、消防士、プリキュア、お医者さん、プリンセス、仮面ライダー、看護師さん、花屋さん、パン屋さん、電車（新幹線）の運転手、アイス屋さん、アイドル、保育園の先生、お姫様、サッカー選手、自衛官、ドーナツ屋さん、お母さん 他